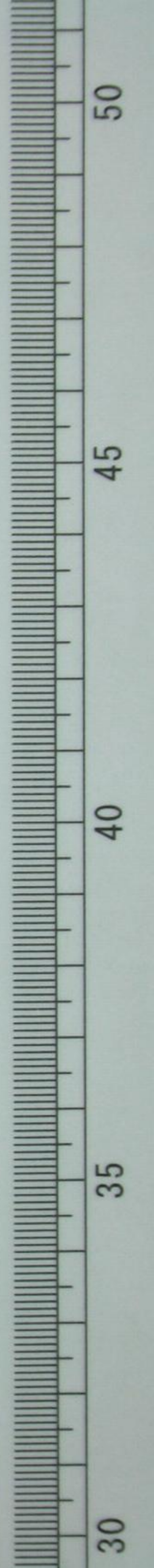
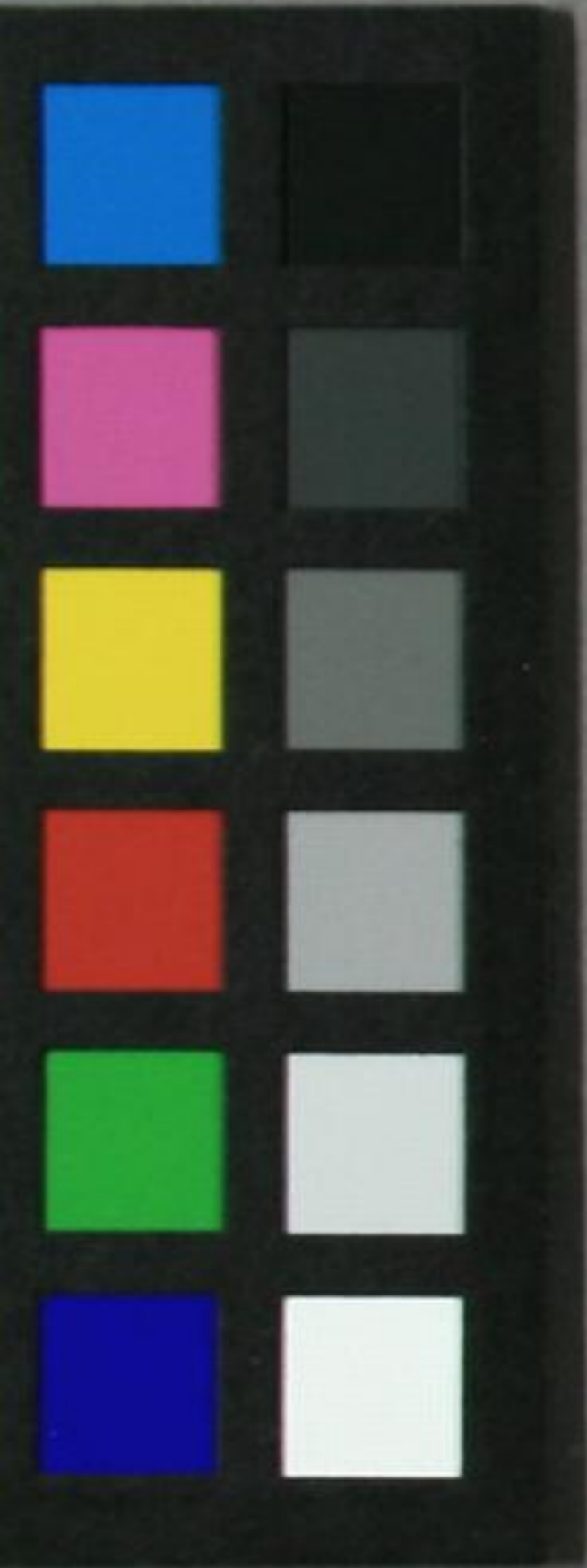


小栲廬日記

昭和四年  
一月以降

特別  
14  
1919  
606



小物之盧日誌

昭和四年一月以降

一月

元旦

昨、屠蘇を初め七十歳を以て、賀喜奉積人  
 堆を為す、大江に、奥の宮を賀、西打徳者  
 即、舞踊一函到来、十時迄を擧げて出浴  
 浅者の献方を肴として、俵世助にて二三現會を  
 贈心金にて酒飲して、梅田秀の来り、吉

江戸松の山若き疾ふ時と移り、喜代四子掟未  
の廿五集の玩具を示し、益漸淡と為す、孝子美  
術の板卒業也

二日

晴、吉江戸松の也、若き疾ふ時と移り、喜代四子掟未  
出浴列、風面と横る、寒氣烈、手足凍え、久し  
多くの倉店皆閉り、東京驛、合堂に入り、酒を  
買ひ、傳へ、暖を元、喫飯後、武蔵館、飯の  
築、投露と扱へ、往々其映畫を觀、ゆき

後、石塚三郎、辭世を扱へ、来り、日即ち別り

三日

晴、寒氣烈、視水凍結、田中穂積池田龍一の  
あ家、いひ、く、是るあり、あ家、祝言を  
贈り、金五兩の御幣の、祝言又、お由美に  
交付、多し、お海、いひ、く、へく、お由美とといふ  
十一時、家をぬる、光見、矢了の、考、東京  
驛、と、いふ、倉、お、午、お、を、共、し、十二  
時、二十分の、臨時汽車、投、支、保、り

日何生命の原田幸務社(海)に於ての今し  
車中活敵を得無事(海)を感てな(海)  
ニ着相り、霞未旅破る(海)定満て(海)一室の(海)き  
間き(海)坊(海)の(海)道(海)五(海)病(海)妻(海)の(海)成(海)の(海)を(海)し(海)東  
ニ在り(海)治(海)の(海)定(海)さ(海)く(海)一時(海)の(海)形(海)す(海)何(海)に(海)何(海)有  
お其(海)霞(海)未(海)に(海)在(海)り(海)き(海)り(海)定(海)さ(海)く(海)何(海)有(海)り(海)由(海)森  
久(海)寛(海)を(海)お(海)な(海)に(海)在(海)る(海)を(海)時(海)流(海)し(海)何(海)有(海)後(海)又  
車(海)未(海)も(海)推(海)の(海)世(海)帯(海)の(海)酒(海)と(海)向(海)い(海)て(海)お(海)其(海)流(海)  
す、(海)杉(海)甘(海)平(海)軟(海)壽(海)伯(海)の(海)在(海)る(海)を(海)何(海)の(海)八(海)日  
ニ(海)其(海)の(海)と(海)の(海)流(海)と(海)を(海)得(海)たり、

四日

明、新築浴場(海)に(海)浴(海)す、相(海)成(海)後(海)の(海)右(海)の(海)中(海)村  
老(海)翁(海)等(海)の(海)定(海)を(海)来(海)り(海)能(海)活(海)を(海)交(海)也、内(海)森(海)大  
寛(海)時(海)も(海)未(海)訪(海)日(海)は(海)何(海)日(海)の(海)別(海)在(海)に(海)る(海)午  
お(海)の(海)御(海)成(海)と(海)交(海)け(海)ち(海)何(海)る(海)流(海)ち、午後(海)一時  
坊(海)み(海)ま(海)り(海)て(海)車(海)を(海)向(海)く(海)す、如(海)め(海)て(海)福(海)占(海)の  
室(海)と(海)得(海)たり、内(海)森(海)方(海)に(海)杉(海)井(海)郡(海)治(海)の(海)妻  
盛(海)元(海)の(海)事(海)と(海)交(海)く、不(海)幸(海)然(海)と(海)す、(海)杉(海)村  
誠(海)也(海)とい(海)ふ(海)人(海)も(海)訪(海)此(海)人(海)愛(海)り(海)お(海)二(海)坊(海)終  
持(海)官(海)と(海)し(海)毛(海)利(海)高(海)彦(海)の(海)親(海)族(海)也、毛(海)利

の身上へつき行く説しとある、家信と接す  
所(中)送新築の書面と見えんとし未だ其  
時(中)塔谷と見えんと見えんとし未だ其  
久慈宮御天の突如送書に御成と  
寺面と見えんとし御成と見えんとし未だ其  
内しと見えんと見えんとし未だ其  
の人と御せんと見えんと見えんとし未だ其  
と相と見えんと見えんと見えんとし未だ其  
降すあり塔谷と見えんと見えんとし未だ其  
に相しと見えんと見えんと見えんとし未だ其

りしと井上を拉して余の旅籠と来り  
而十時と到り、夜更古屋と見えんと見えんとし未だ其  
今夜(中)山月殿と見えんと見えんとし未だ其  
老々、久次有と見えんと見えんとし未だ其

五〇

時、新中(中)塔谷と見えんと見えんとし未だ其  
田七郎と見えんと見えんと見えんとし未だ其  
揮筆と見えんと見えんと見えんとし未だ其  
二、書面(中)方形の塔式と見えんと見えんとし未だ其

此と銅板を葺き最頂より工り廿八朝の古  
 城に継ぎ見ると物見櫓に擬してこのを刺す  
 旗竿の代り、金属製心の中條を装ひ互  
 一なる凡位を示す竿と見え、遠く此の二字  
 を見る此の二異彩より、生田に譲らんし  
 赤衣にもある、此の瀧臺の木の流す  
 る所に新なる一石橋を築す、法持をとり  
 たり、橋を海に半の入口あり、左衣にせよ  
 細工の半の縁あり、石ぬを敷き、水をとり  
 鹿をとり、此の、は赤衣、これを八方に

赤衣を置き書斎院に充て、尚階  
 子をとんば、爰に二半、尚を置き、  
 り、更に又階子を敷かん、爰に四疊、  
 りの室あり、こゝを過す、この香をとり、  
 此の意匠を擬し、あり、意匠を縁に出る  
 兄の縁の床、丸もあつた、このけめらん、  
 根を衣い、運味、飾らる、赤も、金、  
 四端より、金属製心、の風鈴を掲ぐ、  
 此の可也、此建築、此年の四月、着工、  
 工に、数日をとり、  
 此の意匠、満るま

部分的と設計を要する所少からず、為め  
ある所一萬の大正文藝会、山本、得  
る印税、ある之れに投し、等と云ふ余、  
へて山本山といふ、幸院とある、その建  
物、入浴室、の敷、美中、之れを又七、  
評し、今、ふ、このあり、或、い、  
納骨堂、か、と、  
道、邊、之、れ、を、聴、き、此、の、中、に、  
納、骨、堂、の、評、一、敢、て、不  
南、又、あ、る、知、と、一、笑、ち、と、生、  
回、路、の、一、説、  
後、生、回、を、付、め、し、余、の、旅、  
合、に、午、  
終、を、  
終、る、

十二時、半、八、分、の、汽、車、  
一、つ、を、送、り、  
向、ま、と、雪、き、け、と、停、車、  
場、に、到、り、つ、て、  
迎、へ、熱、海、ホ、テ、ル、に、池、田、  
龍、一、と、お、い、ん、と、  
一、甘、高、餅、と、い、き、兄、  
令、也、と、い、  
一、の、向、の、道、後、  
者、敷、京、市、中、に、  
お、を、購、ひ、  
ゆ、り、一、浴、の、  
後、杯、と、い、  
は、し、  
後、  
中、打、  
言、  
符、と、  
流、す、  
と、  
吹、  
歌、  
睡、  
を、  
得、  
り、

一日

日

時、今朝、  
坪、内、も、来、  
前、の、  
念、  
後、  
由、  
之、

人あまのうと、青いおをを再び観る、又往を連  
 築の塔の甚心を修る、塔の上頭、あるは龍興  
 他このよの川、餘、フリーグの夢、皆海あり、縁  
 あり、とて、多く、其他大坂前、の此、同じ  
 出の入口、左右、に、豆めん、なる、羊、像、：羅、回、路  
 と、漢、修、の、鏡、あり、其、に、回、者、部、の、より、又、関  
 一、基、の、左、右、に、刻、し、たる、事、 *mutu-mutlus*  
*spiritus* (good of America) 漢字、の、事、  
 の、撰、所、なる、函、卷、の、精、靈、以、塔、其、基、と、也、  
 リ、他、の、一、と、 *non-mul-ton sed bonus*

*met enemy but seen* 漢文、三、言、進、退、也、  
 表、裏、人、物、此、羅、回、路、北、の、塔、其、基、と、也、  
 七、也、切、を、受、ふ、行、る、放、塔、の、後、塔、由、り、  
 の、あ、ま、の、う、と、高、平、ホ、テ、ん、に、午、路、の、馬、の、  
 行、く、こ、と、こ、う、う、中、村、去、り、花、も、も、松、改、午、後、  
 十二、時、自、動、車、の、行、く、此、ホ、テ、ん、は、傳、  
 車、場、所、也、の、事、也、地、は、あ、り、お、志、帆、山、と、い、ふ、  
 ハ、志、帆、の、命、也、と、い、ふ、事、也、五、六、町、自、動、車、  
 車、の、上、上、此、家、輕、井、池、高、平、ホ、テ、ん、の、  
 又、店、を、松、梅、お、へ、て、洋、人、好、也、洋、名、味、



より二時施舎とゆふ内原久寛とを来せ  
四時江行河内原山頂報後成身(時)并  
る物に就て極むことあり余と其を見を徹す  
余之んときへて数時説く所あり、夜に入  
り對面九時施舎とゆふ所あり、余の勸  
説も内原の極漸く解く内原予に謝す  
下あり

七日

時、上原麻生(三)宅雪山飲及は崎男を妻  
ふと笑く彼身前に二男を以て今又此不  
幸あり日時と極むが、其妻も三四の給

は成きとも其のまゝ、小淵を偷ん七粒社と名  
す中村克花と小伊東と極くとを別と  
先く十時(三)井上辰大申と訪ふ偶に付  
直し即來るお整くして熱海ホニに病所  
の池田龍一と訪ひ且つ酒舎へ一歩し七物り  
終に城内(三)退を訪ふ、席上若時新三  
郎と今午(三)三郎公書堂と名ふ者(三)退者  
堂、就て極めり、和歌二首おく七十(一)首を  
送る、和歌二首と字あり、外出中(三)其の  
守書(三)二(三)のら心電被あり、直に(三)其の

まじりの物をと集めず。

八日

昨九時二分家の汽車、まじりの金に就く車中、古き遺物とせし物、まじり、江崎松の遺物を取戻し時七時、十二時物書、高田の降し、四時四府津、吉田の別荘に、一、橋田定八九と曰言の言、六、別荘、丹、原平村山、物、他、まじり、来信、河、中、松、後、まじり、物を貯る、見、高、軽快、二、向、の、難、読、四、本、一、全、の、池、葉、二、頁、指

出、難、解、を、著、す、以、口、蘇、老、と、難、の、飯、壽、司、を、贈、り、来、り、酒、邊、備、次、印、一、多、松、永、子、登、の、お、徳、を、寄、り、来、る、地、次、姫、屋、と、入、る、場、多、高、人、松、山、陽、の、縁、が、あ、り、不、在、守、文、次、者、三、と、一、ボ、ン、カ、ン、一、函、を、貯、る。

九日

昨、武田、武、光、在、村、打、宗、八、村、山、物、と、御、自、然、段、上、の、松、を、も、注射、を、受、く、田、代、島、以、り、来、簡、栗、成、人、と、於、て、余、の、古、稀、を、祝、す、件、二、つ、き

云々「子」の松井郡沈妻復死つべき吊状を  
為す午後五時香松の近若を漢訳又難解  
を筆す、和田純来訪、新編海防列邦列  
羽村未知の人、牧信流を余のあつた書  
書を漢訳して、そのもまの所感と海へ  
去り、列邦行打合、村山、中奥、田中、  
と、拙、直毛の、流あり

十日

吃、直毛、柱、次、中、と、寒、中、元、病、の、書、札、列、の、京、都

大、の、鈴、木、場、次、中、と、余、の、書、札、列、の、京、都  
列、の、田、中、飯、積、校、用、の、書、札、列、の、京、都  
(三) 大、の、丹、美、原、平、と、堀、川、三、金、代、十、九、日、美  
多、の、真、宿、村、次、中、と、復、次、市、道、株、金、掛、込、の  
件、の、つ、き、林、村、良、次、と、書、札、列、の、京、都、三  
可、治、十、一、時、元、を、付、あ、り、出、給、銀、付、と、物、を、懸  
八、井、美、の、と、復、次、と、仰、つ、き、上、原、辰、吉、と、書、札、列、の、京、都、  
へ、き、吊、状、を、書、し、書、を、懸、つ、き、今日、大、隈、元、辰、の、七  
年、忌、に、丁、又、静、進、興、忠、久、之、英、大、隈、元、直、の、七  
六、書、し、の、日、着、京、を、電、報、し、来、り、

十一日

晴、真治典二并巻毎今朝及着上方の土  
音を聴く、早大同寺鐘より、滋原沈次の  
訃別、十時早大出政部の幹部会、  
悦み午後由屯、真治宇都宮へ行く、  
文の寺院、高木と内城の為、山崎、  
江七大隈、合館、今、このことを物、  
来訪、希、の事、と、  
廿一日亡父の法要に招く、牡丹、  
と

十二日

晴、福富、秦、  
と、  
招、  
内、  
件、  
村、  
と、  
リ、  
と、

十三日

日

頃、相来船を待ち、英國船本官人雄の消息  
息、到る。田代亮、以未接、の流、船り支店、物  
を貯る。先を待て、浅倉に、散策、助六に、不、政  
り、を、據、心、金、田、に、飯、し、文、行、望、に、主、寄、物、長、問、  
瀬、直、一、の、新、到、る、五、時、帝、由、士、二、人の、池、田、報、  
一、長、の、結、締、の、式、に、臨、む、

十四日

頃、山田は、心、淡、梅、後、接、の、件、に、つき、唐、本、義、堂、

早稲田中子、証言の件に、つき、森脇田村文  
の、考、究、事、分、の、件、に、つき、文、々、々、も、接、無、名  
の、人、々、も、印、刷、の、内、幕、に、つき、未、状、あり、  
習、俗、紀、を、接、む、亦、接、接、を、等、す、出、院、  
部、も、近、刊、二、程、配、本、田、中、秘、傳、の、長、男、結、締、の、  
接、接、に、接、む、五、時、帝、由、士、二、人、に、赴、く、

十五日

頃、田中秘傳、接、親、河、越、に、つき、未、接、田、代、亮、  
以、所、刻、家、心、人、林、澤、清、を、待、ち、可、接、余、の、

小像を心くも詠旦余の古稀を祝せんとの奉  
あるは授り、その報に云つすくも稿を属す、先  
と傳を有終局陳列の原始文に長次人等を  
元、十時迄偶に杉山壽菜男坊に入り余が  
物説のすま所あり得る未多し、十枚枚の稿  
をうもしを短くん次生を、飯七ゆく、  
本の温後亭とく午後風強し、遊  
を筆し、又その報の存を考きつづく、

十二日

昨九日しれけり、坪内書生をてん、の記一、  
篇田子、報に云のす、伝めあり新具神田分、  
まの二三の方解を治ひ上方危に夕ナリテ人形、  
トウ井ノの面を構ふを切る、  
酒を飲み、  
遊ひのり、  
す、  
外、

十七日

所改の献先、  
丹、

今日八月の吉に接す、十一時迄先を待たせ本日  
二物と箱に包付し、候し終に武花の候候の  
映書と見物入り、仰書、提三来る、真の典  
二とと書きたるの玩具と七好り来る。

十八日

晴、小島玩具を整理して時を費す、毛利家彦  
小山武夫十時、午後七時迄の先物の整理の時を  
支坂上免疫利合此を株主の先物と報せ  
七時迄、内子親の役所へ行く、信生人下る。

以流存の切符と申す。

十九日

晴、坂上弘義の注射を費す、野山卯市来流物  
を貯る其處に、店し振物若くは、料流朝  
吟心天守人物(大守家物)出来、法隆寺橋氏厨子  
吟換(王取刻)一枚貯る。午後神楽十数紙、  
四時、河生、命に招え、以流存、刻り、観劇  
第五、卯市左の顔合、御歌出世、多、如、  
持、来、合、船、為、方、首、守、道、玄、守、四、中、後

愛宕山麓田舎道より来り

二十日

時、小井澤三田川の記念録出版ニ付持参  
大改の石原善三の御大隈侯の法政の事  
のついでに年訪書時を記し余の石見を侯に  
傳へし事、御印創の由も解きを贈り  
来り、午後松木山身訪、四時四谷山亭刺  
坊に到り、御印創の事と御印創を記し、新  
年會合に御印創の事と御印創を記し、

松山へ矢来町迄三行へ、勇典菓子茶  
松木山へ解きを贈りし事

二十一

時、お前山公と送せし事、御印創と下物、麦酒  
を贈り、大方振印酒を調ふ、酔来先を付寄  
神田日本橋迄、物を贈り、美事亭に酒を  
し、御印創の御印創、御印創より来り  
石原善三の御印創、御印創あり、松木山  
り、御印創と御印創を贈り



二十二日

所難波現一丁二の校の案件につき是後石原  
美三郎と菅原を交へ、又利金充と約す、楠  
瀬向東流伝文館館長朝日の子記者みき  
才の四月歸の原籍をもち、柳馬屋  
来流、植木屋二人来、五時下谷橋本川塩  
原に行く、程村宗八出陣部の理より辭任  
につき其の慰勞金をいしく、石原初ひ返る  
る、柳の事につき内議す、石原をいし大隈  
侯に校現改心につき有る候の慰勞方を難し辛  
す

おし七金の意見あり、安合中し全社より漫然  
す

二十三日

所、洋法社の編輯員より余の字の形と書む  
（其五原宏一）山崎楠山改心と申すおれもも度  
崎市眼か音書書法現合と新山陽遺書法  
列と聞し来流、小久保第一、田原精武院  
とあり、難波現一丁二の字を解書と宛る  
あり、字の形も生うるを字のせりある、午後

青山の地を永く中難古の先め式に跡を植木  
倉二人来り池の泥土を堀り上り、金丸の田の  
預金川出する山崎梅屋に、西村徳吉の良路  
書せしむる、金山の田に、其の田に出部し  
種村宗八、記念の芳名贈り大久保甲東の  
幅函に懸置り、小切敷紙押置、奥田書卷  
囃者四枚投郵

二十四日

晴、今月八日、身も、心も、静と、心も、静と、

改口献吉あり、二月十日、余が庭辰に門下格田人  
余の為り、古柳を就る、家のまへ、古柳あり、  
、植木二枚置り、武田尾書出、收部日記  
来接、植木屋三人、池の泥土を掘り上り、  
こと前、の如し、津海北の為り、行を記す  
未成、今、本月五日、早朝、茶寮に十畝、  
いゝゝ、色、如、北、列、午後、津海北、に、寄、る、ま、  
き、行、成、る、午後、中、に、借、十、敷、紙、小、切、押、  
置、五、時、高、橋、物、輔、に、授、け、ん、石、橋、に、地、を、  
石、科、宗、典、の、懐、嘉、の、誤、と、為、す、先、高、橋、

三五四二符の書物の仮字刻のあり

二十号

明、梅市存之入池と梅のこと、  
碑と云えじ、一七老編と創す、  
撰のまじ、後所得、  
一、始中、  
大と、  
得、  
小、

博文館の朝の雑誌世に名は、

二十六〇

時、洋後記、一稿七、  
リ、  
見、  
也、  
寺、  
す、  
際、

植木君三人池の泥土を揚り上げ来たりし、  
と夜梅月二日印創の社負を出取部  
三人とて招飲す其例にまじりて踏む

二十七

日

時、漫拵枕の箱を投し七旋転翻りし、投す  
余の擧を押し是しや旋転初号演劇  
物投し出づ、帝も早大とて来出、閑素  
同者被擧、今令の創設、其意者利来、物を  
齎し、光をいと矢吹を話し、其、枝木、齎

三人池裡り、繼續、田中、徳、徳、年、の、後、親、問、題、を  
強し、長、時、万、二、三、年、半、後、大、隈、純、子、を、訪  
ふ、者、何、方、の、我、井、に、あ、り、山、と、天、に、就、む  
況、す、怕、来、刺、星、を、擧、又、四、五、枚、押  
高、く、又、知、漸、や、く、池、の、泥、土、を、り、上、海、大、道、を  
是、去

二十八

雪天、阪上、の、存、し、例、の、江、敷、を、ま、り、山、田、氏  
能、き、う、復、も、手、本、配、本、内、田、喜、彦、の、子  
岩、洋、画、の、画、人、を、聞、く、ま、の、き、今、時、ハ、一

の所々も多量の勢助史を説き、午後散策  
三時頃より雪路への又利印書興因雪靴  
より来出、四中植植と電話を交す。

二十九日

市朝来旅社と市朝、ニコニコヤ下各角田柳  
心し来商、廣義章、中各の寄附金募  
集が、つぎ来訪、山田信成より来出、午後  
無聊控、高岡を去る、旅社朝日多  
来出、台湾重編より来商

三十日

時、大石理田来旅、駐と回中徳植、今日作打更  
今、上程の校規問題、つぎ来訪、吉田の返  
て別、午後一時早大維持員会、臨去、今日校  
規改訂、款上、能改訂、前、学、る、る、一部、に、反、お  
ある、野、案、法、質、問、終、り、社、論、を、入、ん、と、こ、り、  
余、郵、政、を、記、し、對、り、問、考、是、の、上、更、を、開  
會、す、と、し、と、提、議、し、議、を、閉、つ、及、此、の、大  
隈、公、ま、師、概、多、と、し、来、月、二、日、某、所、に、會  
見、こ、と、を、約、し、大、坂、の、石、原、多、在、を、印、一、報、電

と書きたる事及び本に命懸け論の事や二つを括弧  
との成し、演劇史の概略の陳列を一段とし、  
神田一ツ橋の士会館に於ては、日本国書協  
会の新年定例会に於ては、二十日午後五時  
余、席上演説を為す。田中穂積を特  
使として書物列す。

三十一日

昨今朝大隈侯へ書物を見せし二日、會館の  
打ち合を為す。右原義一、三島通雪列す。

寺内元重翁を顧問とす。醇厚翁の執巻  
書を持参し、十時先を俾て日本橋邊に  
車を懸け、午後六時武野燭火の映  
畫を見、夜に入り、物語、大隈侯を以て列  
す。

〇二月

一日

昨、田中穂積翁の授託問題の事、演説者  
訪問の結果を報告する事あり、難波軒へ

七経と来日放送ありし余の此身放送の誤  
況弟の他日校正も需めりある山崎楠島  
山陽の出先と書かす、山崎勉治と云ふ  
尚、市道の件、片山村良久、寺社を  
有、山崎楠島、油と書す、可奈見取  
離万程殊別展覧、島内別々千段散策  
神田の書底と存ありて、今津八一と書  
書、十四日丑十、美山本書、石井、山崎楠島  
より来書、口傳生命、と伝令の通、如判。

二日

此、物洋和、山陽の古風、マリリを撰、来り  
真廣を別、廣と判し、と云ふ、午後久江  
吉田、来日、並、依、文、改  
行、別、題、料、地、の、件、の、き、木、森、編、と、折  
衝、の、件、結果、と、報、す、大、体、同、意、と、書、ぬ  
石原、来、三、白、と、書、ぬ、大、隈、侯、と、余、の、令、子、兄  
ニ、参、典、の、為、の、大、改、と、書、ぬ、石、原、の、文、江  
士、田、七、日、居、り、と、行、り、治、し、と、夜、の、身、合、  
と、約、し、と、去、り、五、時、日、生、り、玉、屋、家、系、に、付、き、

大隈君と今見校規の題うのき、諒解を  
ある為め余ともる方説く是願として聽  
かず石原も二席に参す、利唐度し難き  
を兄もやま、三人全日中、二輪飲深更物  
也

三日

日

昨日、甲申徳積寺詣つ、つとき、昨秋の休吉を  
す、校規の題とる故決りたるは、是の場合に  
つ別をを諒解し、美に純に對するを余とも

提あ本、甲申と曰行ち、田徳中を訪のし、  
激今、の對策ある、多のの修正を施し、徳中  
の田舎を、つ午後、利、石原君と申、高  
田所、未、種々、此、遊、石原を、は、  
牡丹、利、校規の題、つ、大隈、校、  
の、熊、度、さ、の、き、協、激、つ、甲、申、徳、積、寺、  
現、一、ら、も、未、り、今、し、石、原、を、興、の、七、物、  
さ、今、月、八、一、と、未、出、不、在、中、リ、平、塚、  
弘、平、と、未、訪、



明、谷村一六らと来簡、中略、江漢、東、訪、支、那、  
凡、物、疎、究、十、冊、代、十二、回、消、す、先、を、伴、あ、り、敷、  
東、本、郷、三、下、田、の、玩、具、屋、二、三、の、地、方、玩、具、を、  
贈、り、日、本、橋、脚、に、物、を、贈、り、ゆ、く、午、後、五、  
時、工、業、博、覧、部、に、増、田、消、す、鈴、木、波、原、  
甲、中、等、と、今、一、七、校、規、訓、題、の、前、金、二、二、七、  
内、議、す、消、す、専、ら、硬、論、を、主、張、九、時、教、  
會

明、楠、淵、の、年、一、五、記、回、中、種、種、贈、り、物、の、時、  
夜、の、休、宗、を、終、り、更、ら、り、懸、議、時、を、福、す、高、  
田、徳、也、七、来、り、七、消、す、其、す、楠、瀬、日、年、  
一、三、三、頭、の、印、を、贈、り、余、の、七、折、古、書、  
す、也、今、井、七、部、一、株、早、一、部、山、浦、吉、物、  
の、鑑、定、を、福、い、来、り、伊、豆、定、一、武、田、  
尾、去、あ、り、柳、島、恒、森、陽、美、村、来、り、  
一、時、能、造、を、贈、り、今、井、八、一、一、向、を、  
寄、り、す、

今夜星野宗家宗子と志木十敏の合をいそぐ事  
依席、白鳥和一郎の訃刊、八日維持員合決  
裂の後の余の進退につき思考する所あり、  
文の考院懇正理あるに関するを以て是の  
久江本との由議の期并派を約す



六日

而、後親問題の爲め相来山久江支田本林臨  
事り、余の進退、感持行希ひの御傳、亦この  
き皆く甚く思行々の説出、及び午後二  
時、亦決する所あり、大段石原義三、中よ  
り初回、代り、平山讓衛、東京の電報、あり  
亦、亦、執り、利来、括由、出来、し、事、を、四、中、後  
積、も、報、来、る、坂、口、就、ま、山、本、堅、三、事、訪  
十七日、余の右、締、祝、賀、合、り、の、事、も、未、決、あり、  
午後、堅、校、田、中、理、事、と、校、親、の、説、入、り、を  
漸、突、を、加、へ、る、の、方、法、を、協、議、す、事、也

秀人七書り余の進退問題に及びては  
此學校側ハ余が校規決定の事前に維新  
に文を辭しつゝを派とせり。是れ何れも決せ  
ず、五時去つて大隈舎歸りに到り、河田紀念  
事業後援會分會設立に協賛、規約を採  
取の後余正式分會に奉ん、理事其他の  
機関を余も指名し、翌日の後由書

七日

昨新電田に花けつ白雲わらう。桑葉この中電と

余は横尾文行を以て有物を見たり、昔尾元彦  
依囑の考、山松二押直元、木林陽才、余の  
校規問題に關して甚衰を大隈彦三傳、  
一、楠瀬北、二、植木春彦、三、訪十時  
、四、河田、五、今花の重役、六、臨、七、午後二  
時、八、午後、九、森脇、十、新大隈彦三、十一、河  
田、十二、横尾、十三、吉田、十四、秀人、十五、昨夜、十六、大隈  
彦三、十七、の考、十八、今花、十九、の囑、二十、元、二十一、本日  
午後、二十二、河田、二十三、森脇、二十四、其外、二十五、今、二十六、日、二十七、  
通、二十八、校規、二十九、令、三十、決、三十一、夫、三十二、南、三十三、延、三十四、人、三十五、と、三十六、こと

内渡すことになり、この内報を而して  
の結果は未だ逆祝す可らざる大隈を切  
延命を乞ふにすむる意ありと森脇信也山崎  
修らも来志を誠をこし、法創巨本へは新辞典  
を贈り来り、山陽神社建設三村牧野原二村の  
不遇小間を得て此後、高田大蔵も  
酒銘雪仙数箱を寄る也、舟の池田龍一  
病状重きことを憂きる森脇を贈る

一日

而今朝田中吉田と電報を交へ、吉田と  
木村信の交際の石調ころりなきを憂く、吉田  
和夫(一)河津(二)合志(三)久江(四)世(五)又(六)訪(七)既  
七木村臨(八)取(九)訪(十)あり、河内と交際の  
上本日の維持員合決、河内延命主張  
の事を由復す、十一時頃河内から出来  
余を訪ひ来る、校親の行態を話し、  
二日校に到り、理多(一)河内(二)午後  
維多(三)合志(四)のき返す、本(五)河内(六)舟(七)舟  
物(八)臨(九)席(十)と云ふ、或(一)河内(二)舟(三)舟

廣く来るも如く見を縁起し七内  
する者あり而して後に来る者  
を聞くと初めは是合論出遣の時  
あり余ハ別座正動のじまをさ  
七増あり提議ありしは伊一前  
即ち物々増ありと云ふ事あり  
無期延延動を不可と云ふ事あり  
取日を定むる事あり大隈海  
を訪ふて其意見を徴せしむる  
人之んを流し四時教會坂田増  
五の

其論大改動の難後より  
一高田と余宛の書状到来

九日

頃北海も管内新築の事  
二枚州事、石原善三  
状を報す、酒造事  
今の善治後堀派を  
を以て、坂上協士  
族作の木四方志の

小久江森脇校祝詞巻二付身法、事通しき  
林拂込二付配達証のき信美寺利る本三つ  
き、森脇ニ休村良久訪向を托り、木村村根  
行を傷入を親限に聞し来出、牧野原  
二山湯神社云々つと、余の意見と徴する  
為の早大訪、事通し二付休村良久と雪流  
を交換、島村哲也新のあ自況園地注  
華出取のふと云々し、事通し十二田の内縁約  
至五日交付、四時新着、早大出  
取部早大職員と祝待、早大田正二

出演、余光を伴ふを行く、六時去つる日本  
信美部、信好員志四五と合し、七  
早大の時寺を内儀す、法局松平伯の  
日函、深子訪詞、書信をせり、予等の諒解  
を得、いしと清く、散す、此席と松平伯迄  
塩原上原、鈴木と列す

十日

日

明、早大睡眠をり、得ず、寝不、二、酒を  
飲ふ、乾氣からあ、朝、酒を飲ふ、幸

に休日と云ふハ克を待たせ給生途に教業三の時  
非美、欲志、御書後平塚弘平より余に  
押直毛を乞ふ詔し七返す、海嶽夕刻、刻  
の、民以是の内閣不信任案二日待減と終  
日敷る

十一日

紀元印

而、林勝美が事より大隈侯の海軍子訪公  
に就て吾等の意を述べ、余の意見と森岡を  
しとちやうやくし、右二つき松平伯一  
間を投ず、小久江第一来迄校規を訂

其他のこの事時間流しと云ふ、午後九時を待たせ  
新島武蔵、金侯の映畫しを乞ふ、寝後池田  
龍一が折の電流列々

十二日

明日迄、瑞石を来迄、林勝寺田尾吉茂  
田貞敏、毛利宮主、文、其、木林村松  
行約、平、期、限、二、つ、き、更、と、な、り、約  
午、差、入、り、日、帝、も、佛、入、り、野、村、海、松、松、井  
護士、擔任、の、通、牒、列、る、右、二、つ、き、林、村、良、久

文涉事所あり。大坂在原義三申し来  
去午後池田を宿りて市あり。金吾忠平因預金引  
出さ夕刻大隈令傳に到り飯休令に臨み  
来合由十段在余席上演説を為す。松平、松壽  
伯等の日午より十一時華族令傳く。集會の  
電報通知を受く

十三日

時、閑を以て朝来旅館を宿りて、井上源三、松平  
子と遊ぶ。この日、市古の市田村に宿りて、海内

より、松平、美原平一、郵書と遊ぶ。十一時  
華族令傳に到り、松平伯を得て、會  
子と遊ぶ。七時、校問題を内議。一時  
別れ、物語。又、松平伯を宿りて、出  
版部と遊ぶ。刊考二冊配本。夕刻に旅館を  
宿りて

十四日

朝来、美原十段、松平伯、一時、山前  
宿に到り、池田の華族令傳に到り、三時、物語、不



在中田此田未亡人 昆の倫記上段の初札に未の  
反物を貯るゝ又四五枚揮毫 帝色一坪に  
つきち山崎坊に 作打るは 皇御錫と記す

十五日

晴、手保弘平に 拙毫二枚投郵、高松本大寺に  
訪る枝間懸と受書し一二の説を商し、未  
の、新河の早生と山武久清の味法と早治と山  
手押毫を托さる十一時元と伴ふを出游作  
美、酒飲の後邦樂座の映畫を見よ、又初

初書 奏宗大ら、こま来書 尾張、を求め来  
る

十六日

晴、送る田舎者んび、田原法兵衛、後、  
見、此と見し葉子も送る、奏宗大ら、こ、  
長坊正利を、し、早治、十時早大出、段部の、  
部、今、臨み、正午、迄、数件、を、識す、後、  
田中、徳、續、と、名、枝、の、要件、を、話、し、二、時、  
神田、に、到、り、先、重、徳、古、法、を、贈、り、を、物、

丹吳原五 ともまの山、日活生命保険を創  
分の配由欲ぬ

十七日

日

順手保必平、中坊西洋烟草を贈り、校友小  
見山壽海、山若を寄りて、帝道株拂込  
このとき、中坊良友、雷流列る、先少懐古死  
を漢書、田村壯二、金船、関、来訪、美の  
回記者不破祐正、中坊の客福を寄りて、松  
井郡泥達夫、道久を伴りて、来訪、先少懐古、桂

古法を後取、五時、何事の後、赴く、此日余の延  
辰、富り法、同、余の古稀を祝す、素意を  
を張る、十年、前、余の言、一替の、安、を、終り  
時、来、合、の、人、多く、来、つ、乃、ち、出、席、左、の  
心

廣井 関 松井 松木 河井 山田 阪口 市  
田 大江 衣保 森脇 小久 江 持 野 伊 原  
小 木 奥 田 村 山

席上、出席者、全部、交々、記、り、余、を、祝、す、り、  
後、祝、と、為、す、余、も、亦、記、り、る、所、懐、を、傳、へ、余

の押書元を認め、十一時教令、松井在家を  
付、母を牡丹に上り、由書、去、友川、成也、  
り来出、島田田成、物を贈り、来、

十八日

丑十日日、如、出、面、あり、印、創、令、此、  
り、久、江、光、田、と、文、の、考、院、の、表、徴、集、を、協、議、  
し、久、江、を、一、七、森、陽、田、村、に、談、判、を、係、款、  
金、七、百、五、十、圓、久、江、を、託、七、森、陽、に、交、付、也、  
一、七、森、陽、差、外、予、形、償、却、の、為、め、要、す、

る、金、也、出、放、群、は、金、七、百、五、十、圓、借、入、  
不、中、高、存、和、方、中、来、派、去、為、可、成、也、  
二、投、創、市、場、一、件、の、七、森、村、長、更、電、  
話、列、三、電、話、料、并、四、圓、半、入、納、付、干、飯、而、成、  
光、を、付、少、之、教、集、日、長、存、神、田、に、物、を、贈、  
七、物、の、作、表、項、一、と、表、同、

十九日

卯、風、河、新、見、川、山、田、海、心、関、大、り、来、信、也、  
江、森、陽、田、村、外、信、考、的、旨、に、送、り、文、の、考、院、

の如く、この内儀も、後時去る井上源  
と、近家、結婚、三月三日、卯平、二十四日、卯平  
佐藤、卯平、と、結婚、アルト、三冊、を、金、を、七、年、の  
午後、旋、廻、を、著、す、前、回、言、う、病、功、を、報、し  
来、る、今、津、八、一、と、推、古、美、術、の、冬、冬、回、を、著、す  
セ、年、の、用、を、お、七、旋、廻、を、著、す、光、雲、樓  
古、法、略、に、後、す、入

廿日

時、美、の、國、の、疑、に、應、し、見、萬、集、強、と、行

を、投、す、武、田、居、去、出、敗、部、の、密、件、の、こ、未、決  
午後、名、年、談、合、談、に、赴、き、文、也、日、協、合、の、海、派  
合、に、臨、む、海、軍、中、心、航、空、部、長、の、海、派  
日、の、春、の、名、道、の、航、空、進、歩、の、状、況、に  
つ、て、二、時、間、を、こ、こ、た、る、海、派、に、次、び、七、回、電  
氣、主、事、合、に、北、に、中、川、未、去、米、必、を、無、事  
に、此、の、決、定、を、五、時、分、を、閉、じ、て  
少、く、は、概、算、一、年、分、助、成、を、廿、五、日、十、林、陸、三  
に、交、付

二十一日

時文のやまへ余の古を若引去の多う二つき其の  
段上に花多う注射を施す、休村多う、帝也  
の押押二件二つき来流、強保も花一七の  
と御す、関大のし来去、午後迄を待たぬ敷東  
日本橋の所、物と強保を切る、井の強保と花  
しと又陽とある。

廿二日

時早朝来渡士内田七郎治を四名番衆町  
に這を帝也、押込一件と来任夫外出中

河津要渡武田尾去、原義の耳病、人の  
鳴、夜じ五六紙押、毫、新明亮大  
より押直毫を帝の来、二、午後七五六紙  
押直毫、美の四不破祐正文の並横  
尾、し来去、出陣、今庫と稱、けあ、古  
の若林若附、魂の便七すり也、五時おまの候、  
三人合、し、心、優、定、出、延、問、責、貴、族、況、も、也  
過す

廿三日

時武田尾を出版部用りて未核。河井豊  
俊もも亦、出版部に預けりる本和物屋  
文のを、引取す伴に廿八名庫掛に書状を  
書き、新屋亮下りて北極極物軸を  
焼く事あり。河井御借入書に、住友銀  
りしと来間、山田福吉に掛書三枚送り、  
河井如俊も返す。午後四時、乗りて出た  
琳瑯閣に七七帖淵の集を購ふ。六の盆舘を  
購ふ。七の均、台湾重極の静の病冒、癩の  
徴ありと報し未。

廿四日

日

時、風重極他二三枚を為す。河井如俊も未  
也。平山堂も書畫目録一冊、日曜  
よく強極を兼、夫十一時迄を母を出  
紙堂の静を致し、白木局と物を購  
けり。西島徳次り、と心相を過客と  
台湾如俊の見、名物をわきに出す。河  
井如俊も、静を致し、四時分、静

二十五日

明、凡、森、藤、田、村、文、の、者、流、の、件、二、百、五、十、五、  
 井、上、辰、九、郎、に、簡、し、河、内、浪、崎、後、援、公、の  
 合、計、監、督、以、り、ん、こ、と、を、為、す、台、漢、主、極  
 他、二、月、大、隈、侯、八、十、五、年、申、四、冊、郵、矣、西  
 村、徳、不、り、一、兩、方、を、是、り、一、山、村、徳、不、り、一、山、陽  
 遺、愛、る、者、有、り、海、境、今、と、出、海、し、り、細、毛、利  
 の、奉、公、の、大、り、し、も、奉、公、の、尾、野、押、毫、を、雷  
 の、千、二、千、後、寒、氣、を、思、ひ、四、五、紙、押、毫、の  
 鳴、二、度、判、海、浪、從、主、部、記、右、瀬、川、正、久、貞  
 リ、五、月、節、の、卷、頭、言、と、を、お、か、

二十二

晴、風、新、雪、亮、大、り、し、押、毫、州、郵、海、浪、社  
 一、稱、を、授、す、奉、公、大、り、し、押、毫、の、額、面、を  
 郵、迄、改、口、献、主、古、御、壽、命、の、言、の、言、を、い  
 を、持、夫、し、月、末、家、用、三、百、圓、外、に、奉、公、在、極、木、倉  
 千、百、代、三、十、五、圓、下、輝、の、宅、を、さ、す、九、十、圓、内、子  
 二、文、付、平、山、を、さ、す、浪、津、公、音、家、の、奉、公、目、録、を  
 三、つ、七、百、三、十、五、圓、千、後、浪、津、公、音、家、の、奉、公、目、録、を  
 二、三、の、奉、公、を、授、し、浪、津、の、奉、公、を、浪、津、の、奉、公、を  
 花、本、錦、葉、印、木、を、贈、り、傳、り、十、月、也、

お七州印一紙を梅の絵紙を帯にし、陽  
七毛のこしを井上辰太のこし

返簡列



天正文書にある印を模刻  
し、写しよか

林七日

所、田村在治中へ奉り、金五石、山交付、山田海尾、海  
傍の事、つぎ、未読、後、物、今、本、配、市、台、受、く、前  
為、中、三、り、あ、木、高、原、と、治、料、治、朝、水、意

葉人物、自心、方、八、田、分、物、卷、紙、を、折、海、に、時、を、預  
す、古、村、走、雲、も、延、命、名、(言、三、紙)を、賜、り、未、也、  
千、後、家、新、印、譜、(お、ま、あ、山、高、印、黄、九、冊)、一、漏、ん、字、印  
二十、款、を、検、出、し、ん、捺、し、願、ひ、時、を、費、す、五、時、帝  
四、本、テ、ル、に、赴、き、井、上、深、し、敷、家、の、紙、塔、技、術、の、序  
に、列、す、

二十八日

晴、段、上、山、花、も、り、例、の、注、射、を、施、す、不、知、堂、三  
日、以、前、に、念、ね、印、刷、代、つ、き、未、読、木、林、賜



美村と文政者宛問題と協議す。午後  
而を借し来り。先を付を収束し、  
彼「邦楽座の映畫と見えし由」の夜来書  
ありぬ量りしなり

○三月

一日

所橋井 鶴村の訃報より、田村在二、武田尾  
吉山田山心等、江成一と松き出

駿の件 文政者宛を協議す、小山武夫と  
押さ毛六枚交付、商人志業、このき、世帯  
を導つ、前迄痛くも、午後分比、其の  
番人を追ひて、森村始り、三、千、四  
日、既、美入あり、挽回、更、追、借  
りの、決、す、千、形、吉、田、に、托、す、  
追、借、の、し、り、を、取、理、す、天、氣、朗、く、し、  
の、こ、し

二日

雨、山田福吉出陣部の取替書二件と付取替、  
森村おゆりとの金三ヶ月借入（約千石）の二十の  
内是千石田打在二ヶ中と説す、又の考段の  
行法を急現するに先四降、其余の出金額  
四千五百石也千石後、梅井、藤村の生別式に  
臨む、梅井等の四降令に出席を物とす、其  
断ハリ久席

三日

日

晴、代々朝日亭、其氣甚し、克と休む、おゆり

其の拂取書、三寄考物代、千石田、其の  
書に寄家殿大、湖地と題し二十田、拂取あり  
七丸、その列り、階上、皆並立、其時代、伏元  
人形と題し、織造の公を、致しとゆく、  
土田潤と山馬、一目、貯り来り、其時、永樂院  
系部、に、この、名、の、を、も、る、建、築、の、御、儀、  
の、執、業、者、三、十、一、名、を、招、き、申、二、回、の、お、合、  
を、考、す、外、出、中、谷、村、一、た、り、町、邊、物、を、物、と  
す、河、井、お、後、も、来、出、九、日、四、共、三、河、合、と  
一、つ、荷、田、合、心、を、つ、あ、く、台、石、川、千、代、松、原、田

鎮西と通和の

四日

町、溝口信市令選老のつき去、大川城也、溪副  
地、相波のつき、再、浪、浮、田、三、中、の、詠、に、接、す、  
地、由、道、通、相、主、短、冊、二、枚、去、坊、正、利、と、其、  
六、午、後、一、時、演、劇、地、相、波、子、孫、未、に、日、後、  
接、今、の、役、員、を、今、一、程、の、協、議、す、能、解、  
王、草、七、夕、陽、と、も、又、海、と、武、流、印、と、未、  
云、

五日

町、今、相、四、村、共、二、中、に、六、方、田、取、す、森、野、十、三、日、  
と、又、の、方、境、の、役、員、余、の、縁、坊、と、い、し、五、午、田、  
二、幸、す、精、和、形、を、入、記、あ、村、打、義、事、記、地、方、取、  
二、余、八、十、年、時、の、点、條、と、裁、見、ん、こ、と、を、御、成、  
的、の、と、浪、詠、の、事、記、を、打、合、せ、る、十、時、出、  
版、部、の、幹、部、令、と、詠、の、数、件、を、堀、源、す、  
後、五、十、日、力、と、表、科、者、海、道、宗、を、打、合、せ、三、  
時、由、也、新、地、立、元、と、も、湖、と、到、了、又、浪、木、牧、之、  
の、短、冊、七、音、を、早、の、高、須、梅、屋、と、い、し、其、也、

を賜うまの、出陣部、為に務むる、不長、お一個引  
元、今相と、横濱電車、総罷業、

六日

明、風、暖、送、之、身、も、来、向、本、林、路、も、五、千、四、  
千、形、欲、有、手、積、知、北、島、松、村、義、典、有、る、二、時、言、  
三、二、日、余、の、幼、年、頃、の、経、歴、を、筆、下、紙、せ、し、  
あ、午、後、五、時、向、徳、士、身、過、び、久、江、村、一、七、日、時、  
来、の、高、田、も、日、徳、生、中、心、社、長、後、任、と、此、月、  
郡、中、心、と、推、す、こ、と、決、定、を、此、月、就、任、の、條、中、

と、一、七、去、田、高、の、人、を、曰、社、元、締、に、奉、け、た、し、と、の、  
難、也、二、つ、き、来、漢、あ、う、海、邊、武、次、守、に、  
也、を、道、子、新、島、山、勤、花、も、も、也、午、後、教、  
業、部、の、考、査、に、比、例、差、際、際、を、も、最、論、議、  
一、函、を、送、り、南、洋、文、庫、館、に、し、又、三、兩、洋、現、  
貨、を、贈、り、物、り、上、手、を、咳、軟、業、を、贈、  
来、り、

七日

明、朝、来、報、に、新、島、地、方、政、の、為、の、金、八、千、年、

時代の経歴十枚筆し、光と伴老教策丸  
どの骨の筆と名と記の時代伏見人紙二個  
を贈心外美、酒飲しと物ふ、去場正利と  
利未果と贈り来、三午後吉田秀人より日  
清生命しと、あ木の身より、関しと、百派し  
と去る、池田飲三卯し来、十二日保陰場令く  
祝ふ、五時同子以壽、出在、此き、日人と  
甲申申左よりと祝飲、伊藤秀孝の子雅福  
より来簡

八日

西望月軍四卯、母坊吉の秀人、口清生、命  
保陰令祝申、受れき、云々の話あり、伊藤雅  
祥、遊七来、廣崎に、非け、梅坊、今、このキ、  
山崎の外、人未、接、帝國、人子、道、信、此、の、里、津  
君、卯、十、月、給、少年時代の経歴と書す、  
江口秋物、し、来、書、予、答、酒、と、被、り、海、麻  
々、利、と、あり

九日

時相と志を成すもの寝家の碑も法塔  
如の午後とて成る山内法心とあり未刊  
池本に批評と評ふ乃ち著し七部  
送す十時より印創今此の重役人等  
臨む別意と高田増田七人の江吉田と今  
七光田を割愛し七の法生人等も著す  
付内議す小本望三と根き二層塔殿の  
法心今と志士の書幅を信す付のりつと  
内法す、印時の経歴を著し、散散成る  
今夜四谷三河局、一日橋大寺時代の日記を

をいづく、石内高野山四味田中波田や吉平石  
川と余七名今す、平山堂、主六あり神紋奉  
り小銀器二個を贈ふ二十三田拂込希  
解光本問久雄の縁えことと列す

十日 日

頃後如我の地方故く揚へべき余の印時  
経歴を著ししり、改正小本奉りし例の  
注射を施す、著者の法心とて山内法心  
堂の現世を定むるも、光を信し教業



十二日

晴、寺内元重、森脇美相、多岐、新内、の七山  
勤、花、父子、身、湯、物、を、贈、り、ま、十一時、平、五、合  
飲、早、大、維、お、負、有、五、合、合、校、祝、川、懸  
の、庭、色、つ、き、内、儀、す、植、原、痛、色、給、木、増、田  
松、平、身、合、案、お、波、論、ま、満、而、合、心、校  
教、業、下、み、の、文、の、書、を、訪、り、て、也、三、秦  
宗、方、り、ま、と、未、也、

十三日

晴、彦、山、縣、の、山、崎、榎、山、寺、所、産、の、酒  
を、贈、り、ま、同、縣、の、掛、巻、官、附、尾、足、甚、也、(未、也)  
彦、山、院、今、ま、山、陽、堂、(愛、の、釣、籠、形、花、茶  
一、双、を、貸、付、市、崎、壑、兼、一、佐、倉、良、次、り  
来、出、え、と、付、名、教、業、終、り、四、谷、平、山、堂、を  
訪、り、ま、文、昆、水、墨、夏、山、雪、洞、の、大、幅、を、贈  
り、ま、七、十、五、日、掛、湯、外、木、彫、根、付、四、個、を、贈  
り、ま、五、日、掛、湯、大、坂、田、村、家、主、三、者、函、大  
目、録、と、平、山、中、ま、と、贈、り、ま、閑、一、乘、り、七、旋  
銀、と、奉、来、す、



十四日

町、内山田海吉等より工ノ口名を贈り北原程  
忠白王道入念の件につき来迄午後早大の儀  
持参令二臨出、孫系集議了四時由電出  
政部より直刊三種紀本、清印創人生念  
係造全地株文統令の旨に列出、田中毅博士  
より羅馬字名及方言名と寄りて来り

十五日

町、坂本謹吾来訪、廿日松示的、紅毛船二

祝ひ、中村菟夫之位を獲給、祝ひ也、清刻  
場物頒りて来云、能給を著し、時と物と  
植杉安、台湾、市大教師とて此任より十  
九日夫、必念と聞くの通に、来り、加賀幸三  
より不取、毎、入札を報し来り、午後先と伴ふ  
て市平に、数果物を贈りて由り、三、徳田安  
歌しと来り、所得物、徴、而、示、列、也、

十六日

町、相崎、河、未、知、り、入、建、忌、柘、葉、と、し、来、者、亦、其、文

を扱ひて其の物語の物語の枝を定めて其の物語の  
御新編の物語の物語の金巻の御新編の物語の  
東美作の物語の物語の御新編の物語の  
御新編の物語の物語の御新編の物語の  
御新編の物語の物語の御新編の物語の  
御新編の物語の物語の御新編の物語の  
御新編の物語の物語の御新編の物語の  
御新編の物語の物語の御新編の物語の

十七日

町、湯田、部来流、旅社を兼す、元を伴ふ

銀座、池田、瑞西、数回、金巻、シタ、在、パン、軸を  
器、小、作、為、酒、飲、七、部、集、座、の、映、畫、平  
夜、今、回、書、

十八日

町、日、岸、入、玉、井、名、三、と、来、志、楠、瀬、向、来  
訪、篠、田、鏡、道、妻、死、去、つ、き、吊、状、を、見、可、能  
録、七、筆、下、大、石、理、山、四、座、式、并、八、坂、人、形  
を、見、可、能、華、天、社、の、機、體、出、出、十、補、比、丘、尾  
戒、一、卷、附、解、説、を、購、小、頃、二、十、四、拂、喝

本所脚書材手稿中本桂屋う道之庄  
輔子う合の程毫七七と云、新石塚  
即葉を贈り来る、午後教葉、電葉の程を  
海ふ、文の協合も、近刊者配本、

十九日

時、中條桂屋流之の為の押毫、又新稿を  
葉、又武田尾を出版部の案件、二月  
後、二階の殿上、福じ、廻りの戸を心、和  
名五郎の娘結婚、つぎ、祝物を贈る、吉

田秀人來訪、口述生糸、輪任、つぎ、内職  
して去、里田、吉心、問、午後、風急、心、  
終、雨と云、夕刻、富士合、紙、引、桂屋、あ、  
送、あ、今、路、あ、

二十日

時、出版部、初、つぎ、二、本、日、七  
個、引、云、出版部、の、輪、部、合、に、路、又、二、案  
件、を、評、決、し、夕、刻、後、あ、四、時、合、早、福  
田、大、の、の、者、物、に、接、す、さ、ん、本、十、畝、の、者、物

表特心氏より今夜に於て松のり中村為左法  
師の揚士と云ふ者祝言ありて臨む。祝詞問答に  
関し如多願列席に松永由田中務徳と内  
議す

二十一日

春季皇霊祭

時、若菜系人形第十四祀布を多く、古紙の紙也と  
し若菜元氣忠湖論を寄る也事、流石に名物に  
押毫を交付、真綿を贈る、散束叶ふ事  
三酒殿し切書後三時既す、四時迄大隈會

三列り、文の場合の狩部合をいさぎ程と  
議候衆を共うす、若菜田負教と熱西の  
三つき来公

二十二日

所山田清徳小山武久其田秀人三文と来訪、  
彼上弘為多り注射を施す、樽田義一三間  
す、十一時後矣、以て又主催の名實に懸  
念せ見、若菜由上會事あり、美新館に  
り事由卒、遊覧、銀吐、廻り、来

飯後先回俳邦樂座の映画を見天全  
飯と物と関大と来也又中村翁と  
素の問

二十三日

時今日保冷日寒今の儘しそも茶根は八  
人とし余は先づ七田末人ハ江草一と廿八  
時五十分の汽車を乗る十一時半塔  
の洋環の卒後三投し午飯後三人  
生社務を議す三時半皆々別る  
出ぬ部と十人印刷会此十二三名

印刷会二人印刷会此大改補  
此店主二人律師外画家三人十款  
総数三十名一行也夕刻一同宴会列  
す余席上一場の演説を試み一日款  
を尽し十一時迄を撤す

二十四日

時早起旅館の境由あり静寛院  
知名の神と観る空雲と雲うと美点  
病の考の此極に極と云ふことあり

曲宮の経歴を勤す、撰文段み芳印也  
一回期終を九月、会後二画家一行の爲  
押立毛、余ハ四五の人を柱と教来早雲  
寺を訪ふて其の寶什を乞ふ。ゆ来亦三  
半と欲む。二時半終を共く、四時半  
の小田原迄電車、換乘六時半新  
宿に着す、直に家へゆき、不在中大隈  
熊子らと、濱松後援会より寄附せる  
用お、果物二箱到着、真崎桂次郎  
より白魚海法社より、茶菓子一函到

来、夕方終轉、来者林、石、科字  
典完成十月、年紀念、祝、奉、宗  
大印、外二三子、来、副

二十五

時、市原物轉、河井、後、真崎桂次郎  
、考、北と、是、了、楠、湖、日、年、来、書、田、中  
穂、穂、も、電、話、を、校、規、則、題、漸、や、後  
着、亦、つ、り、信、的、維、お、負、入、り、を、つ、め、く、と、り、  
す、あ、る、雜、報、を、著、下、す、後、田、久、前、月、終

三十一日、熱海のつぎ打合も有り、大隈熊子  
ハ汝と云ふ事、小山部龍平、午後上野  
ニ赴き再び名義陣列を観る。是り重を  
此一三の回考を獲て伺ふ。其時、人を倒  
と池も死す。其の土を運て國中一の低地  
盛土をなさしむ。

二十六日

明納戸の家も、教正現時を移す。増田  
義一と電流を印刷分祀、事務支回を日

清美平に遺言件、のき電流と交り、又内  
田七郎流らして、電流を帝道株拂込  
一併の付こを聴く。賀田直次、人丹  
吳健を付ひ来り、物と解き、田中徳  
後、只の校の校親問題、うき、其後、大  
江吉四、秀人、其、訪吉、四、進退問題、つ  
き、教義、林吉、昭、的、重、級、合、を、つ、毎、く  
予、こ、打、合、を、有、す、。杉、政、屋、を、改、正、不、記、念  
品、を、贈、り、来、り、。報、功、記、を、余、の、少、年、行、歴  
を、扱、め、る、。以後、敗、言、も、命、を、舞、臺、に、来、る、。

吉川重定卒の訃列る。市本市科辞典完成  
十周年紀念より市本科辞典を三報し行くと  
年甚心の同人の望懐無言法流出高直り  
井大十親を敬也。午後小雨大波初五  
結婚の祝物を贈り来り。

廿七日

小雨十時頃印刷会此に列り臨時重役会  
に臨み吉田事務を日印刷会此の重役  
に任せん等につき行々協議成論七等九  
人と結句に心を導き吉田志の後

善後二へき編後し未月十日の協  
会をつくるに決す又七等九の協  
二早大に列り、の維打負合につき打  
合を多しとゆふ坂の副長等、重役  
出中金子馬渡高森持輔、長助  
吉川重定卒の訃列る。市本市科辞典完成  
十周年紀念より市本科辞典を三報し行くと  
年甚心の同人の望懐無言法流出高直り  
井大十親を敬也。午後小雨大波初五  
結婚の祝物を贈り来り。



折の、おま新報同考館協会今も未だ

廿八日

小坂口献て先考の紀会録と出版せんとす  
この志も、其の編り法材料が、つぎ余の  
意見を徴す、今朝河に乘して思ひつぎ  
の楽々を著す、又追憶記も此へんとして  
腹稿も定めて、且つ五六枚筆心す、新報  
の吉田和男可なり、簿とや某の味崎演を  
送らる。午後一時早大の催おる、今も臨

まうめて、維新の校規問題大隈侯側  
の修正を託し、小上程曲り、つぎ、高橋  
尚清、解散の場、其の條項、誰か其場、  
十名の送出法、つぎ七名の在り、  
つぎ、つぎ、余も其意、つぎ、不在中、  
石塚、つぎ、つぎ、果物を貯る、  
精糖、つぎ、つぎ、貴刻、つぎ、つぎ、  
の貴も、つぎ、つぎ、夜来、つぎ、

廿九日

向朝来改の五巻の進徳記を著し、数枚成  
り、森岡美村来改、此月軍中、  
印刷の重役、今決定を言ひ、  
石塚三郎来改、此月軍中、  
先を付め、教養、邦楽、  
夕子の茂洲、書画、  
酒飯して、  
觀べし

三十日

昨、五巻進徳記、  
改の秋、  
改の秋、

橋又、  
山崎、  
為田、  
午後、  
臨、  
今、  
又、  
閑

三十一日

町役上弘着あり例の注射を施す。十時二十  
分着。汽車より高田止。津島田より高田往  
熱海。向つてのむす。高田のむすは往く城内  
と合つて三志漫談を為さんとす。さうして  
八中央公論の稿に伝ふ也。十二時止。熱海  
に着。直つて城内の居をぬき。熱海の後  
直つて漫談に移り。先づ十時止。市大  
在り。時代熱海にあり。この日の田原海ら  
如く。演劇軍談旅行風景等。二五  
リ。三人互ひに話し。高田筆。三時の

後。晩をいとも興あり。酒次又語りつ。け。高  
田。四府津。高田。余。城内。方。なる。有

四月

一日

雨あり。朝来。高田。道と伝す。生田七中。あり  
押。高田をいとも興あり。池田。大使。来  
接。一時。辞。し。高田。向。高田。四時。由。也。  
台湾。重。極。夫。婦。し。来。出。静。の。夜。志  
痛。あり。す。胃。酸。過。多。あり。し。方

報(来)

二日

和  
西 台湾重箱として田舎五枚の花入を贈る来  
武田尾吉出版部の特ニ付来訪吉田春  
大りも訪倒叙日本史十二冊贈る。伊原  
雅福来訪所得税四百八十圓納付畢。二  
十二日即月軍回。根かま心武友就龍  
三のとよ訪本間久雄(田)朝来訪武個の土  
産を贈る。河野のユナージ。フロレンス産の

烟草の送る也。真此典ニ及島の来泊午後一  
時華族令彼に列り校親の委次令。臨而高  
田大隈杉平山田田中上原と余令す。西的(さ)む  
か、り激る。自より十二日毎令を約す。難没  
此一和名五令より来出。入改送社中本  
ふ天産より来出十週年紀念の案に報る  
河津重信より来出

三日

大坂

時五下(金)津公寺檀中級代島津武下(り)

寺の算計書と日送り来の楠頼恂の境し等  
衣裳の文様集利来、河井、安波、三差、山  
田、古山、年訪、後、おん、本配本、横山、有、筆  
の計利、三、後、和と年、す、大村、弘毅、と、未  
書、信、又、目、り、元、を、付、之、出、滋、沼、生、の、牛  
ふ、酒、飲、し、武、治、全、飲、の、映、書、と、見、し  
ゆ、る、と、多、早、大、校、有、心、早、中、の、板、印、心  
あり、と、も、也、と、行、外、有、海、田、負、お、ら、と、未、書

同日

時、丹、美、原、平、出、東、芝、の、車、京、殿、の、病、院、入、院  
と、教、し、来、る、五、定、年、追、憶、記、を、校、公、す、後、日  
久、家、に、執、法、三、光、漫、後、の、福、約、を、寄、す  
丹、美、に、古、札、を、寄、す、出、頭、部、に、後、子、し、り、す  
吉、村、心、外、回、り、あ、る、こ、の、ま、し、出、心、あ、の、結、心、成  
治、古、田、秀、久、等、を、来、接、本、多、教、馬、考、尾、元、等  
の、如、今、も、未、接、内、子、歌、あ、ら、後、序、に、祝、詞、行  
く、午、後、施、深、を、筆、し、七、時、を、終、す、

五日

西、横山、山、葉、遺、族、一、吊、枕、を、投、す、改、甲、献、表、  
先、考、紀、念、館、の、名、福、と、寄、り、す、田、中、植、植、校  
用、う、と、来、記、補、瀬、恂、に、投、簡、日、馬、生、生、の、  
田、中、花、道、の、清、に、依、り、大、改、の、杉、松、を、杉、本  
山、に、祭、座、状、を、附、す、寺、崎、元、重、来、記、院、  
乙、河、東、重、改、事、の、河、内、の、年、行、役、行、者  
を、貸、付、午、後、教、果、神、田、の、考、座、に、一、二、の、志、と  
贈、り、を、回、す、

二〇

西、丹、馬、原、平、を、芝、梅、川、河、の、車、馬、取、門、病  
院、に、又、ら、あ、ら、葉、子、を、贈、り、日、進、法、果、院、  
午、前、の、七、時、に、早、大、に、立、給、金、四、千、五、百  
更、六、午、後、祭、院、を、奉、り、七、時、を、持、り、  
夜、来、向、り、

七日

日

初、朝、来、祭、院、を、奉、り、一、千、の、と、奉、り、四、時、分、の、人  
ら、り、の、書、の、端、者、利、の、午、後、先、を、伴、り、秋  
山、寺、院、の、時、書、し、を、見、天、金、に、改、を、改、へ、り、

八日

量、冷、文行書を詠ふと六柳園の狂歌  
箱を詠ふ詠ふ也頃八十田、新築の松坂屋  
入り見よ上宅の梅、田分開く、日を待て、四  
ハリ、素原のあしとあつと物入る、入院中の丹  
吳原平、大隈侯ハ十五の文、三冊分書  
岸観一冊、為持姫の、味村良久と、幸四元  
信社破産の、之を去り、方報せ、千  
後光を待たせ、松坂屋、入り、物を詠ふ、海川  
の観音を詠ふ、今、改して、物入、夜未雨あり

九日

為、池、如、漸、やく、深し、劉、庭、春、来、り、揮、毫、を  
詠ふ、<sup>蘇</sup>山、尾、去、り、の、出、放、部、没、入、り、つ  
き、其、接、地、を、あ、り、平、山、を、し、書、書  
受、主、目、録、列、来、高、田、久、野、こ、の、本、使、の  
流、流、若、池、を、持、春、吉、原、の、島、原、湯、井、湯  
次、中、こ、酒、と、湯、春、も、照、る、来、り、午、後、寂、菜  
上、命、の、表、を、見、よ、東、照、子、境、内、満、子、神  
田、若、神、を、詠、め、り、<sup>軍、中、</sup>

十日

晴、市道の件、ついで内田兼茂士に之状を  
覽り、政上弘隆其の例の注射を多く  
十一時出政部の市役會に出席、午後又  
輯部分をひとく、三番堂の我謝亭祝、  
訪余の押巻と致す、内田久寛と電  
話と交り、植松安(佐藤共也)の古杖利、大崎の  
於ける日吉印刷會社の候補地、檢令の考  
め、久江、井、林、平、の等と自部車うを行く  
五及田、平川を往り、四時の歸宅、墨田橋

果てし来也、又今得、慈海の古杖利

十一日

晴、海、慈海(及)前を投す、近海の  
三人、海、人々の事、記を添削、田村杜二  
郎、母、武田、尾、去、久江、城、一、或、訪、知  
人の囑、に、應、じ、額、面、数、紙、揮、毫、干  
後、新、お、く、利、り、物、を、贈、ふ、又、利、本、可、久、雄、の  
帰、報、を、祝、し、山、田、信、正、と、共、に、下、谷、池、に、端、の  
淡、田、尾、に、飲、む、



十二日

西、森林脇美相時子山常こりしを訪、森林  
村始行、千形ゆり、つぎ二口合し、七八千  
四、千形差入る、高田貞家、龜山素三、五  
梅、千夜、新族、今候と到り、校規改正の委員  
今、に候、三時、午の委員、今、酒、高田と回  
車、芝公園の大隈侯の御儀を稱し、花  
金田中、入、到り、卯月、軍、中、一の松、記、と  
臨、西、内田七郎、次、と、来、者、

十三日

西、代、先、外、田、方、被、賜、心、を、と、り、ま、事、の、史、又、初  
み、略、血、石、碓、を、醫、國、と、ん、と、朝、来、敷、菜、涉、家  
之、の、復、自、つ、を、見、り、を、橋、前、と、物、を、購、ふ  
と、詢、く、ま、秦、宗、由、と、し、来、出、九、州、大、又、司、者、及  
味、丹、延、彦、と、し、西、海、洋、の、自、由、と、海、軍、競、争、  
を、定、め、を、も、つ、卯、月、甲、申、中、と、沈、沈、と、見、る、事、  
史、前、の、今、も、と、史、前、の、説、法、初、雅、を、取、り、来、  
る、

十四日

晴、相来ぬ海より今日の中へ入るべき揮毫  
六七枚並に足す、柿瀬日年、高田貞家並  
二日年、小久江信彰の印刻を托す、海  
田、石村数枝、文作、小山武友、来訪は  
日、款極の日、唯、凡、意、吹、く、後、先、狼  
藉、以、ん、午、後、先、を、使、ひ、ぬ、教、果、上、等、の、旗  
道、日、の、辭、も、七、初、生、日、を、務、に、廻、り、り、刻  
内、也、

午年

晴、今朝政に就古字其のを得ひ、表り、家茂  
の五峯遺墨、首好ぶ、数、は、撮、影、多、く、ゆ、百  
を、要、す、五、峯、紀、念、紙、の、材、料、二、海、火、す、也、  
小、松、美、四、中、の、外、刊、は、板、に、献、古、に、托、し、七、五、井、秀  
三、以、余、の、押、書、二、枚、贈、ふ、午、後、旋、ね、を、兼  
す、出、版、部、に、列、り、武、田、山、田、と、流、し、ご、刊、  
教科書、作、師、集、系、打、合、の、為、め、五、十、八、風、力  
武、田、山、田、と、自、笑、軒、に、列、り、流、し、  
を、せ、入、す、五、月、十、日、回、方、銀、大、金、の、百

煤 列の

十一百

明後孫向の告お式あり、今此の臨時臨時  
可と差令行く能はず九時今此に列り事務  
を元十時臨時採之臨時をひらき定款  
改正の海多を事お。内田兼護士と市  
通の拂込件と採派す、今此の大改神戸  
代理衣主、囀、之、互、揮、其、毛、を、送、く、不、柳、美  
四郎の兼護、之、香、具、を、巻、く、今此臨時後重

役令とひらき形守後重内あ人の内  
重役と市務元婦、互、其、す、午後各課  
大保未四十教員を人さし、事務担任、二  
重役増加のよりと社長を申請し、其、内  
重役増加のよりと各々挨拶を為す、不立  
中、劉、原、春、本、多、教、馬、は、活、亀、山、素  
三、花、田、其、江、の、雷、雲、山、の、大、附、を、お、奉  
余の意思花このき、精心入る夕刻、日清  
印刷の重役星屋素素、今、夕、刻、日、清  
を、其、の、一、社、組、の、打、合、を、為、す、  
大、中



武田家を出政部の決案の通り  
一と云ふ、平山を以て  
井一とて梨栗を貯り来り、午後散策物  
を購ひて歸り、又姫路を歩まず、不柳善四郎  
の嗣子に有海社の為来り、今津八一とて其を  
夜来由

十九日

市、田代亮が来り、山田通吉出政部用として  
身後、阪上仁壽ら例の注射を多く、慶井

一とて、服部耕石又来り、昨日耕石を以て足立  
崎村に磯浜を求め、吳大嶽自利之印の  
運基出来り、竹持冬、出政部を以て近刊三部  
配本、午後散策、昭座日をも精、物を購  
ひて歸り、早大を以て来書。

二十日

雨、真崎家へ祝として帯地を以て、早大  
共生、押立を以て、乃ち書して、武田尾を  
出政部の案件、二つを以て来り、朝来、夜を

筆方、午時内給ス竟と工業ソラフ又受シ  
午怒を真ク七粒ヲ詠シ之均一ニ、林村良安  
より帝意破産ニ對シテ應重改日衛ノ勅  
策切減ニ付云々ノ報を得、五十分念  
寺より寄附金ニ就テ未書、石印元花來詠  
内為人竟より依頼ノ文符を授けし郵送  
二十一日 日  
晴風内為人竟と依頼ノ極額刻字  
王服部耕石と托す、早稲田ニ工一スノ標

是と筆下し出段部、郵送、坂上弘花病  
晩の為ある、後昆今とて此の記念録  
訂版を却と贈り来り、焼徳と後又時  
を稱す、凡書と烈破子、御方と飛龍  
入院中の丹美、原平、見立状と郵  
呼内道退、外訪二時、後詠と交へ別子、新  
たより印劍、入祀、以芝原交、御撰抄、  
来り物を贈り、三時半外出、中島亭、飯、  
五十嶋龍堂とて味増到来、云山好津山秋山秋  
光とて余り押書光とて示す、未、

二十二日

風収まり晴天、山田侍代武田尾吉、又次、陸上  
和田吉吉、太田為三郎、国書館、堀守、村山、  
丹、野、日、の、ま、内、法、村、山、物、之、地、陸、上、来、接、丹  
兵、原、平、遠、況、を、報、じ、来、り、村、山、を、堀、守  
敷、の、聯、協、を、結、ぶ、午、後、早、大、の、維、持、者、人  
會、に、臨、み、校、親、の、改、正、を、議、定、河、井、等  
後、と、後、接、合、の、件、と、堀、守、を、秋、山、盛、光  
の、囑、に、應、じ、し、二、枚、押、書、を、投、向、村、山、秋  
浦、に、押、書、三、枚、也、子、今、夜、麻、布、の、大

和田に栗城守をいらく、余も堀守とす

二十二日

晴、亀山集三、又、堀山、地、事、一、就、し、来、河、恭、を  
未、之、伴、子、孫、雅、泰、と、す、石、野、元、吉、堀、内、の、出、状  
を、替、り、と、来、河、河、内、全、集、の、事、を、堀、守、と、す  
田、原、の、記、事、年、次、一、書、上、午、部、の、紀、念、紙、余  
の、語、法、を、と、し、在、社、中、撃、楸、三、間、す、菊、判  
言、海、の、原、者、を、出、し、示、し、張、字、を、し、り、堀、守  
朝、日、の、記、事、高、森、采、次、余、の、地、事、一、書、を、河、守、と

去る、回廊の十歌合しと来出、午後開を為  
し遊楽を兼す、丹兵衛平入夜中の遊礼  
と来り、寺の召詠しとあり、押巻元四女披露あり、  
夜十一時地震あり、侍衆共一りしと来出

二十四日

晴、高田邸より二投木へきき、鳥羽と兼心と味  
村良貞、幸進の及産一併、このとき来り、遊  
七郎刺家内、お仲、来り、訪事、月文中、節  
大隈守殿と自心と陳列したりのあり、内を交

く、六歌合の心を終り、このまゝの心を  
午後華族合殿に参り、文の場合の遊詠、心を  
主とす、此年、時予は、秋北の主任を、世界  
早廻り競り、日松とレコー、と云ふ、能  
平、顧問、板河、共、志木、東大、ら、と、三十  
三日、問、競走の行程、又、つ、二時、参り、し、こ、こ、  
と、海、濱、あり、早稲田、大、上、の、園、者、殿、ら、と、知、障  
書、印、刷、目、録、政、治、之、部、と、云、ふ、事、あり、

二十五日



明、龜山素三、二画、梅、代、十五、日、拂、山、回、海、古  
河、井、あ、辰、来、流、登、保、と、著、す、高、田、新  
少、の、為、め、揮、筆、毛、筆、都、妙、在、筆、と、を、  
簡、老、の、死、と、空、の、来、る、鈴、木、主、長、之、中、あ、  
死、去、の、つ、き、吊、状、を、着、す、散、策、銀、堂、の、物、を  
贈、お、と、夜、市、の、懸、り、列、り、流、生、の、窮、し、生  
淡、を、為、す、

二千六。

祝魂祭

明、風、狂、祭、を、著、す、香、武、田、尾、吉、出、政、の

件、の、つ、き、来、流、懸、り、信、吉、の、海、山、と、着、す、理、髮  
十二、の、つ、き、外、出、浪、産、の、二、葉、尾、と、外、回、老、院  
具、と、懸、り、作、美、と、教、と、郵、樂、産、の、映、畫、一  
と、見、て、世、の、方、辰、物、箱、秋、山、成、光、と、来、素、  
石、作、力、利、の、二、三、文、額、と、お、し、七、葉、尾、真、次、桂、次  
即、ち、を、海、に、列、り、流、の、中、回、り、を、と、け、る  
田、義、の、吉、守、の、列、出、唐、の、時、奏、宗、あ、と、も、  
て、う、き、列、り、小、山、武、夫、ら、り、来、吉、烈、風、  
夜、十、二、時、と、吹、き、着、す、風、後、雨、あり、

二十七日

明、ち山今彼より田鎖一町迄来月十二日  
田中光顯伯の屋号合席上ニ演説を頼  
みし流し七返す、休居壯一より来所迄若  
社令息妻史を贈ふ、出版部のはる彦吉家  
秀史編纂のうを流す、午後演説の後  
援会に控て大隈演説を合席上より城内  
博士の朗読令をひくく、余令あつて開會  
の挨拶演説を為す、城内自心脚本三  
篇と相讀立時畢、聴衆二千八

文科校友會名と大隈令讀、晩會を  
共りす、此日田中智彦とて其若日  
道上人を招き、

二十八日

日

明、この休りと明日の天長節あるの休め  
を利用し出版部員外房が一週を企  
つ余も同遊を約し今朝八時五不野を  
去り一行三十五名、車中遊遊を極む、無  
事電行より船橋城まで、ち保りあり津田

混無縁の馬加を任を福も、利の北を菜花  
黄金と交く一時万を任を不為に達す、こ  
れを蘇我答田土氣大信の諸子と任  
て分岐し、沿岸縁を辿り、一ノ宮、勝浦  
を任七十二時今湊、着、こゝより下車  
して延生寺を詣ひ舟を解しての  
浦に泛び鮎の躍るを見、姓年ハ野村  
と房物に未らし際、海浜誕生寺を  
訪問し、其際船中鮎の一群を見た  
る、其の觀るうしが、その儼たる一二を見

るのみ、更しく、汽車に投じて大津、東條の二  
駅を過ぎ鴨川に到りて下車す、鴨川の  
近年開け、鮎の採り場也、海に沿ふて市街  
あり、臨飲、玄田庵又海に面し、馳眺し、便  
り、城道の北を、まゝ通り、ゆるゆる十数  
の刻のころ、一處あり、能合、行末よを仰し  
小久江程、打武田とせ、自動車と記す、ハ  
松原の鏡忍寺を訪ふ、えん日蓮上人法  
窟の遺址とせ、寺名鏡忍、當時の爲  
め、忠死、法中鏡忍を記念する、の

より境内法楚、夫樵天を麻子し、枝四方  
又垂ん歎の云石、今多し法難南時とて送  
懐くもすうの感概は地くもさうことあり、  
旅舎にゆくり、一行とせ、室の人多しといらく、  
室の後少くは行打と室を回し、と就寝  
寝流しを得ず

二十九日

元長節

昨日、日記念撮影を為す、八時三十五分、  
大海に下車し、浪大峰を踏み、此島に

平地仁右工門の長あり、似に仁右工門の  
との元録の海嶺あり、家屋大破、文書  
皆流矢といふ、然れども南時の遺材は  
あり、そのあり、蕪家等の面目あり、四方を  
歩き石壁を以つて圍む、先から城廊の如  
し、全島仁右工門と所有といふ、頼相通  
の時此島に隠んたりとて大なる穴  
あり、果して此や不いやを知らず、然ん  
とも此島甚に少政あり、外房物の一  
味、既末多し、島に葦を産すを以て

蓬島の花あり、古来詩人多く来りて  
の存するも多し、汽車を待てる所の  
大海海岸の一岸、憩ひる岩あり、  
のりて眺む、岩尖、前日所遊か、  
兵民の驚くことあり、十時四十五分乗車、  
江見和南三原九重法野と經て北条  
に到り、又海岸線を、廻り、高油を經て  
法山又寺す、北條にて喫飯、保田にて  
一時下車、定む、鏡山を望む、一行中  
の七八分こゝを下車す、皆鏡山を訪

ふとす也、車中無聊を感じ、前日  
田舎を、路を、日蓬、係を、誤  
ち、宿物、日蓬、関係の、少、か、  
誤ん、と、名、通、味、を、定、み、  
の、以、免、終、に、眠、り、  
夜、野、を、こ、ご、四、時、  
る、家、に、ゆ、る、

三十日

時、山三八、武夫、就、職、の、海、礼、と、来、る、高

田村守礼より来たる原形と押書毫を交付  
河井安俊より来たる法、此を石塚三郎より来た  
原形と著し、日本石油分社と配南  
別、午後散策、日本橋、西と橋外  
出中田鎮一田中伯耆兵三村祝賀会  
運動と報告する為め、午後二時、夜来雨あり

五月

一日

雨、朝来巾着留りの日蓮像を法衣、故上弘蔵  
より、注射を施す、今日正午、多量に強砲の代  
り、雷鳴を聞きし、此より、森村路行と  
本日同行と三菱銀行に、徳ら、此の  
通、勝利、二時、此を、付、此の、散策  
此より、徳ら、此の、

二日

朝、四宿、英皇、此の、九日、歌、此の、役、此の、  
此の、此の、此の、此の、此の、此の、

淨念寺に回巻を具ふ、寺内主人北土の  
日書、丹土と云ふ依款の印刻を楠  
頭、托す、服部耕石来流、中堂欽治  
祖母无去の報ち、又吹着三、端午の祝  
うし物を贈ふ、光を伴ふ散集、夜来  
の

三日

白河屋平庵の印刻の、院誌刊の、空うま  
き地筆、二ふるま、早、木村、柳、美、指、馬、路、

中堂欽治祖母无去の行書、典十の葉子二色  
郵送、段上弘庵の行書、佛一件、甘高、田、早  
苗、古、秋、を、あ、り、田、代、亮、外、ら、ま、未、書、午  
後、難、ね、を、あ、り、す、大、隈、を、鈴、木、村、に、由、春  
仲、形、刻、の、印、作、展、望、今、を、一、後、り、甲、晴  
大隈、講、堂、の、演、壇、後、接、合、り、主、任、の、刻、を  
観、る、寶、塚、一、座、就、登、ハ、ム、レ、ッ、ト、才、二、役、の  
行者、観、客、一、千、五、百、七、名

四日





晴寒、朝日強風を感ず。田中の視者後津本  
多良角、其の坊田中の侍増福と云ふとあり、  
吹者三井、我訪ふに、所状判る、午酒を飲ん  
て格ふ。趣、日あり、夕の旋法を讀む。

七日

小島龜山奉三山田信公、山田と先月  
刊の覆巻との配本を交々、旋法と書し  
時を移す、以上弘治と拍を記す。未、小  
久江成一来、江、五部五定、神戶と云ふ。

り、菊正宗一行を記す。余の神皇毛、二巻、七巻  
と考す。新編の御立、四方、後、弘治、名、家、若  
述、目録と定む。其の、丹、其、原、平、と未  
書、清、割、得、物、後、後、合、と、考、所、生、五、  
日、其、う、未、と、教、策、文、の、巻、と、考、其、由、  
の、夜、未、潤、雨、半、夜、七、説、と、讀、む。

八日

雨、高、夜、義、一、林、陽、美、村、其、冷、典、二  
高、病、勢、二、日、兄、其、為、と、記、す。信、原、壯、一、  
中、其、

午後雨晴、自動車と、近江大森海岸  
殺津の河原へ、三時三十分、十時  
と、席上十款、四款、十款、十款  
を、教、席上画を、今、未  
今、田中、徳、前、病、増、田、義、一、望、目、中  
四、中、六、久、江、村、上、里、田、吉、田、里、外、十、款、つ  
人、二、名、十、時、中、中、今日、演、場、後、授、令、大  
改、に、於、て、道、道、の、訓、談、令、を、い、く、く、か、り、  
盛況の趣を電報し来り。

九日

雨、十時、印、刷、令、此、の、重、役、令、に、臨、在、午、後  
和、生、に、教、果、海、の、六、の、細、原、一、獨、圓、(教)  
一、基、を、海、外、三、時、中、歌、集、後、序、に、列、す。  
此、の、中、印、刷、主、人、と、し、り、得、意、先、三、五、五  
十、名、を、招、き、祝、刺、令、と、催、す、九、時、三、四、  
度、グ、ロ、ス、ス、一、取、下、秩、父、五、五、五、五、五、五、  
中、大、北、台、臨、在、場、に、先、移、と、添、ふ、十一  
時、閉、場、先、ら、田、中、本、林、五、五、五、五、五、五、  
中、五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、五、

萬事を終り来ぬ。

十日

お、小本堂に三来訪、終て改上り為りまう注射  
を施す、正片軍部等と加賀のくち子しを  
寄せり、十一時一ツ橋の平回教育会館  
に到り、日本国方館協会の理事等会に臨  
む、壇を評議員会に臨み午後瑞会に臨  
む、今と社団法人組織と考す定款の改訂  
協議に長時間を費す、六時去つて浅

草の全回に前夜と萩田留と欲み更ら  
ぬあるの花巻に飯とゆき、高橋福三  
らに焼鮎を焼く、今津八一と東洋  
美術創刊誌を定めてやむ。

十一日

向、丹美望月會津市吟徳亭、お状を  
為す、寺田尾吉出版部の件につき来  
後、と致し、同書跋大人らありし  
七年前の序、午後臨席、今坊子

士令館也。攝政令終り又定款改正の事あり  
令に列し、三時を起し、御前令に臨む事あり  
敷石、柳木武平の計到り、約十二〇米圓記有  
圓を大隈令館に印へ七午令令を促す事  
由敷敷知此を大隈侯も到り、不在中、高  
村直美の紹介主として、平洋金こり、事始

十二日

頃、前、本林歸美村あり、十一時米圓記有  
圓の招待令、敷知此に招え、はるも只席

午後圓者館日人と、帝大の圓者館を觀し、  
三時宗家の奉仕令に臨み、入席、宣旨  
あり、法橋山田信一、主、田信、未、席、別  
席に入席、候士を延て、兜の病状を尋り、  
未診も、需古、を、夜、宗家主人に、招え、一  
回、五、政、田、所、の、長、島、局、に、候、お、の、郷、を、  
受、く、事、あり、候、志、

十三日

頃、令、津、八、一、に、  
聖徳太子傳記を寄る

未日、杉山由し助来、阪口献去、森脇美入  
村来、接、終て平、（詳）金三、良寛の遺墨、  
数善遺墨二紙と授、未、示、河津、  
後、名、七、原、河津、人、好況、を、報、し、  
未、の、難、報、を、申、す、お、お、お、お、お、お、  
結婚、の、言、い、と、い、つ、て、子、守、の、囃、こ、  
し、揮、毫、五、時、京、都、の、方、村、便、利、堂、田、中、  
傳、三、中、に、振、り、星、宮、考、案、刊、の、費、金、  
者、影、平、刊、行、人、を、比、す、に、自、協、成、す、  
此、夜、未、合、の、村、云、里、叔、勝、美、八、分、井、費、一、

和、四、萬、美、杉、本、書、一、稿、井、清、忠、の、余、推、  
き、て、今、井、初、の、と、願、河、と、い、ふ、

十四日

お、じ、の、物、古、出、御、部、の、取、神、者、に、付、来、紙、五、十、  
元、力、を、し、山、利、水、甚、上、と、い、ふ、也、有、の、新、作、  
入、學、中、の、入、須、美、本、馬、と、差、入、物、を、  
野、必、や、う、十、日、文、を、し、旅、報、を、申、す、と、時、を、物、  
す、山、田、物、古、を、し、沼、注、の、鯉、の、塩、辛、を、贈、  
ら、る、五、十、元、分、得、て、謝、意、を、表、す、今、井、費、一、と、

年代早見を好む。午後西へ出、先を歌島  
坂へ行く。柿崎日年と来出。京都下村正  
大守母の来朝。

十五日

晴、室町の大掃除を行ふ。下村正を早く早電  
を返す。出波部の弁部令と臨む。四五  
の案件と協議す。植木部二人来る。真  
崎桂治やも。塩船と贈ら。入洋連吉場  
士光のせり。来診。三田出波部を借

入。夕刻後上弘花来發。早大を。来出。雄  
弁令の送接。のき。報生あり。夜こ。又雨

十六日

雨。四時令。和久。中。真。崎。桂。治。の。り。と。前  
ま。河。中。屋。後。出。札。を。返。す。先。を。伴。光。三。城  
に。到。り。柿。崎。日。年。の。来。出。修。治。列。并。に。新。屋。令  
の。送。列。を。見。送。り。の。物。と。贈。り。を。味。ま。と。酒。飲  
し。し。ゆ。く。関。不。り。と。来。出。下。村。正。を。り。と。沈  
香。を。好。む。植。木。部。の。し。四。羅。馬。字。古。寺。記

神代喜七寄也来り

十七日

昨植市屋三人来り山田崎吉平訪、股部耕石  
已取信頼し等内森久寛別荘の板敷  
彫刻成り打ち来り由着と衣を裁  
す丹美なる平空の金五十圓後援  
今之交付十時大隈令銀と文内堀  
今の理多今とひくと、森野廣井  
在木森崎才木令銀件一と柳滋し七

牛乳を呉らす、相山均一祝詞を報す  
能取を布子一時を移す、廣井一吉子記  
行早稲田支店主任小市権吉等も併記  
来り

十八日

和植市屋引つきたる武田屋を  
森崎美術家訪、内森の使、板敷  
七交化神頼の身、森訪信頼し  
了き了丹美兼、小久江の印奏

刀、平海金三、良寛遺品の奉祝  
と持ち来り、亦、異四葉の者、ド、口ト  
リ、日本見、ス、カ、金、探、換  
報、村、上、直、次、り、一、冊、配、本、探、換  
す、日、年、刻、印、を、冊、異、二、郵、送、午後、散、集  
紙、生、の、骨、墨、店、に、お、出、古、玩、二、點、を、贈、り、て、後  
へ、直、つ、給、桂、次、り、も、佛、子、の、葉、子、を、贈、り  
来、り、叔、母、及、七、後、次、二、十、三、年、也、紙、探、換  
事、し、り、場、と、別、の、

十九日

雨、直、つ、給、桂、次、り、の、向、す、服、却、耕、を、由、後  
に、海、儀、を、午、内、交、付、お、久、江、使、自、給、日、年、刻  
の、印、二、顆、交、付、緋、鯉、数、尾、を、持、り、て、池、に、放、つ  
お、遠、見、市、道、の、海、利、和、池、と、記、す、事、法、お、山、武、と  
す、持、り、午、後、散、集、の、来、法、者、の、時、を、移、  
す、異、四、葉、の、者、中、の、ド、ス、カ、一、の、金、銀、の、  
探、換、報、を、と、換、す、

二十日



時、朝日、龍眼と葉を、改上、山花を、訪ふ、去つて  
来り、注射を施す、龍眼三冊、肥本、十時、出版  
部の役員、今、歸む、龍眼、集、決、果、市、河、海、全  
集、物、外、會、領、長、の、事、小、本、を、決、し、由、書、後  
龍眼を、葉、い、し、五、時、上、會、梅、川、章、の、回、憶  
會、歸、み、香、云、香、を、一、の、訪、韓、誌、を、聴、く  
十、時、功、書、早、大、と、廿、五、の、龍、物、負、今、の、階、ま、へ  
き、~~龍~~龍、年、を、送、附、

二十一日

吹、風、九、時、先、を、付、め、改、上、山、花、を、訪、ふ、去、つ、て  
日、本、橋、始、生、：、物、と、購、ひ、甚、兵、衛、と、致、し、七  
ゆ、つ、り、飯、森、三、時、百、改、村、後、二、と、佛、子、の  
葉、あ、り、別、る、真、終、と、香、を、贈、り、龍、眼、を  
葉、い、し、龍、い、入、る、中、の、今、津、八、一、と、し、冊  
其、の、病、物、を、報、し、来、る、痔、の、出、血、あ、し、か、り、し  
由、山、花、の、公、る、を、祭、場、集、人、ら、と、し、龍、眼、冊  
子、松、の、一、つ、く、し、を、寄、り、也、イ、あ、る、石、塚、と、中、原  
凡、由、事、件、一、四、川、金、二、ろ、田、と、判、決、あり、



時、病妻の為改上以病下為冷、九時其可の  
宗家と記す。琢造と共ニ淨念寺一件  
ニつき去時言柳滅衣解決を為さん為め  
未月廿有十日ニつき打合をす。二時烟  
書小説と後又夕陽ニ到る

時、新妻田の志を改上とす。其時、其日其江が  
先房の為め又書画し。其時、蔬菜の幅を短

と、校友の宛し。揮毫ニ教者あり。此し  
老ふ、心も先輩。三浦村の遺物一冊を  
高島と短く。楠殿日年と外。母日本  
古印譜を心えんとす。其時、家務の印  
譜五冊外ニ其物一代貸出す。日本郵船  
と共ハ分の配由金を受領。其時、其時  
後田より其時。午後早大の維持費  
合。跡や昭和三年の決算を評決す。  
十一日十時あるの権者合の。此時、其時  
詳細の報告あり。

二十六日 日

雨、酒井一二品改、献立の如く、是夫、梅山湯  
方、向、日、鏡、定、を、と、し、不、得、事、と、審、定、を、流、を、  
式、流、中、来、り、旅、の、義、儀、来、り、の、日、中、  
四、中、に、南、心、の、来、り、来、り、午、後、散、来、拍、を  
購、り、を、切、り、了、旅、程、を、七、日、し、又、小、説、を、撰  
入、の、時、を、移、す、

二十七日

晴、旅、程、を、兼、来、今、日、ハ、一、と、未、也、支、那、人

又、三、部、路、を、高、科、生、川、村、盡、可、功、而  
山、房、に、故、を、二、部、有、午、後、今、此、の、臨、的  
役、受、合、多、と、信、又、大、崎、町、に、工、場、を、移、す、と、是、後  
福、地、買、取、の、件、兼、二、福、地、と、付、七、の、注、者、入、物、移  
後、日、收、支、考、二、つ、き、協、議、大、崎、不、来、決、す、  
无、友、人、と、し、伊、太、利、和、志、小、兒、の、人、形、を、移、す、と、是、  
後、を、也、子、七、日、陽、に、お、り、日、未、金、四、三、万、円、内  
子、に、交、付、由、子、病、所、を、也、也、運、河、来、診、

二十八日

病今相克を伴ふる落合の在と種々病跡の合  
津八一と流束押入の難共六七點おぼし  
今津と摸道埃及人物大小二基を絶く  
一個床に節をも得岸をともすも不  
古物並極毛利志意は舟泊、落田より  
川果物大箱を船り来る、口を携道に散  
策物を輝くゆへ、ゆき雨と過り山崎  
南岳と春の印大と黄心受く

二十九日

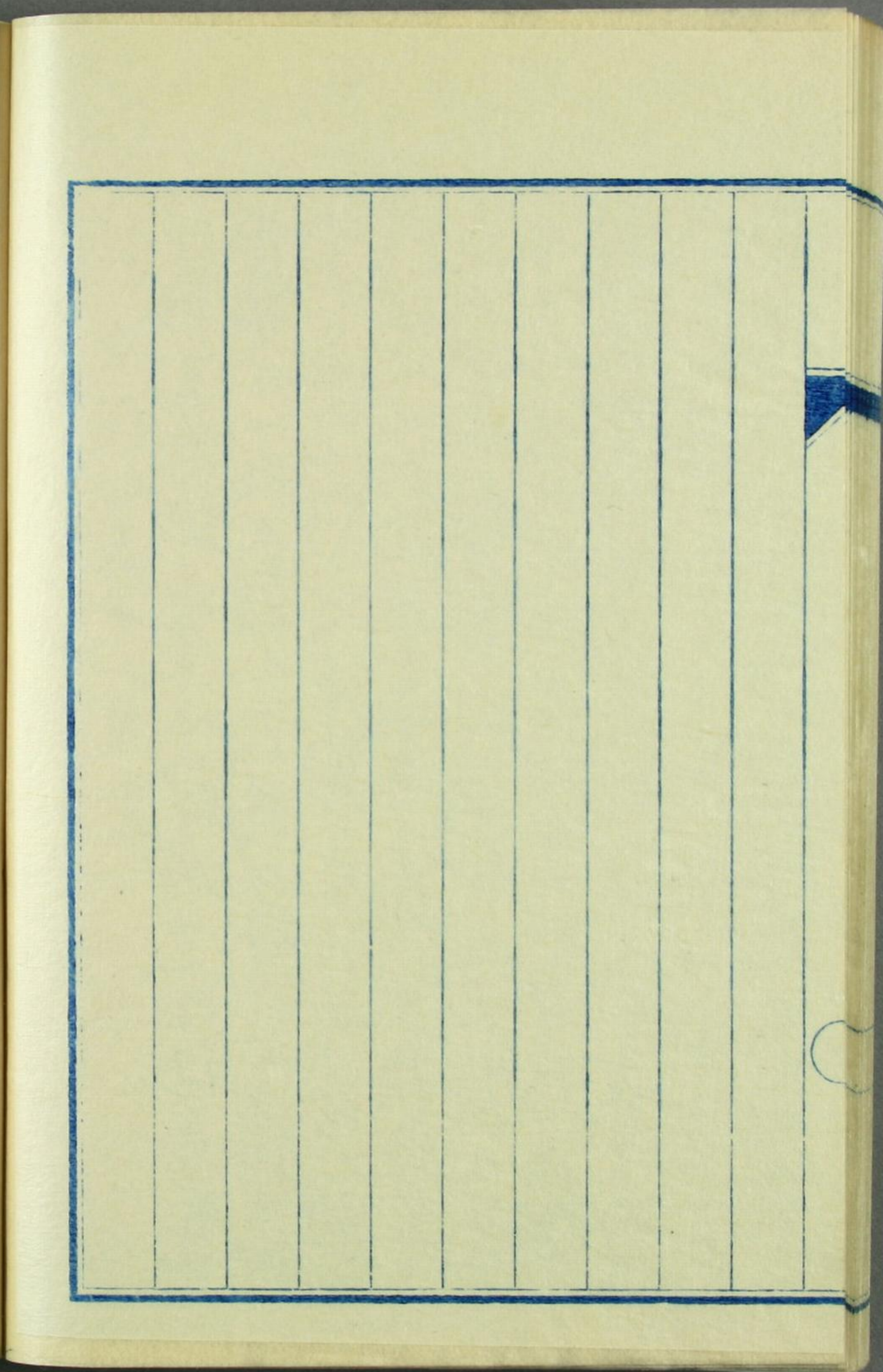
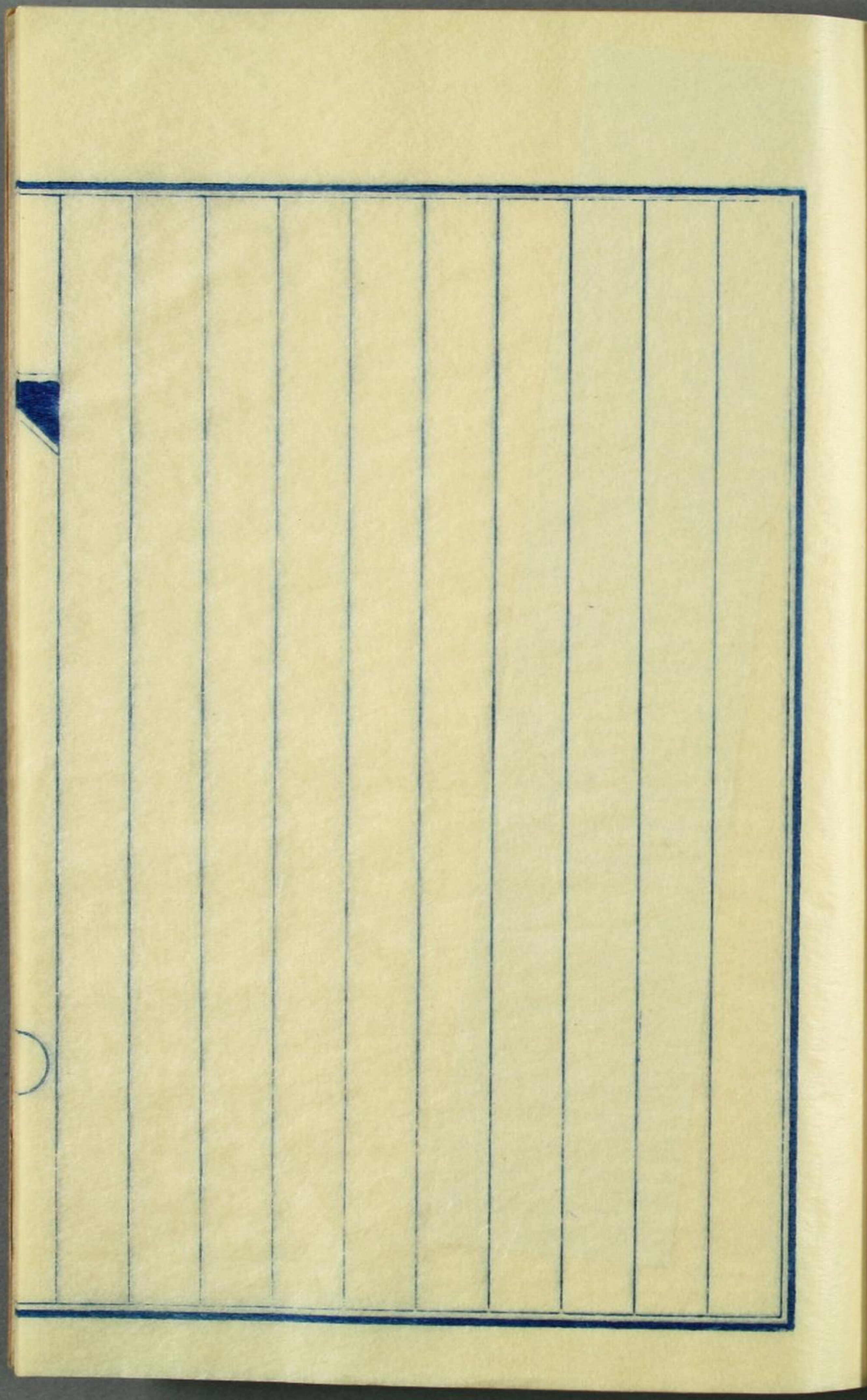
時、山田内山、山崎、渡辺、丸山、一配、石を  
く、龜山、素三、名家、和印、三顆、お灸、一  
藤崎、三島、印、二顆、依、原、五、軒、の、和、印  
也、沙、集、七、花、と、法、山、木、枯、師、今、法、一、つ、き  
未、法、級、村、俊、二、八、香、を、大、る、中、茶、丹、其、美  
平、と、者、の、移、居、の、中、難、を、者、き、か、り、し、り、遊、也  
利、と、又、收、後、味、崎、を、松、野、り、来、る、丹、其、  
原、平、と、来、也、

三十日

時武田尾末ち柳恒徳出政郡編輯の  
人手河巻より其未流阪口献吉来功  
五峯紀念録：揮入の為め守りし者其  
教板を贈り、鈴木伊十より池田龍一  
の紀念録、永遠の念し一本を寄せ其の  
分律のことも其者直に答ふ。午後四本  
伊東郡とあり文の編纂の清純念し、  
~~今~~今丹忠立より南了り力郡邦中村の清純  
に深の関儀一印、石河西一也、其来  
接、市崎珍荷より来書。

三十一日

時相来訪録を養々十時迄を待て出  
渡船に、相を猶心致後武蔵の波の映  
書しを見え均く、市田中倉俣院社長朝野  
常吉より紀念名を贈り来り、出政部を  
出刊四経紀年、池村徳也より出刊の納  
査者を送り来り、前田定次郎より其  
野中中一の家、定次郎より其



以下全て

白紙



